

アメリカの態度

らの動向が戦局に極めて重大なる関係をもち、その去就如何によつて大戦は戦はざるに既に決定的となることもあり、また收拾すべからざる混乱に陥る場合もあり得るのである。先づアメリカは最初より英・佛側に好意を寄せてゐる。即ち彼等は何れも自由主義國であつて、ヴェルサイユ體制を支持するものであり、また相互に利害關係を共通にするところ多く、且つ全體主義國が攻撃する目標國であるから、自ら相通するものといふべく、従つて英・佛の對獨宣戦があつた時に於ても、大統領は直ちに中立維持を演説し、戦争には介入せずと稱しながら、九月末の特別議會に於ては、戦時中立法改正案を提出して武器・航空機・軍需品等を供給し得ることとし、英・佛側に經濟的援助を與ふることとなつた。かくしてアメリカの豊富なる天然資源と工業力との援助をうくるならば、その戦時經濟は極めて安全鞏固なるものとなり、英・佛側にとつて最も大きな強味となるであらう。

イタリアの去就

次にイタリアの去就は極めて注目するものがある。イタリアは陸軍兵力百三十萬、海軍力七十萬噸、航空機五千臺と稱せられてゐるが、特にその爆撃機は二百珣の爆弾五十箇を積んでよく遠距離に達するといはれ、また地理的關係より見て英・佛側と戦端を開くとき、地中海に於てフランスは脅威をうけ、アフリカに於て英・佛の植民地は危険となり、この方面に於けるイギリスの制海權は脅かされて、印度・近東・バルカン政策が危険に曝さるることとなる。従つてその戦局に及ぼす影響は極めて重大なものとしてよい。然るにイタリアは既にドイツと防共協定を結び、更に十箇年の軍

ムッソリーニの放送

イタリアの眞意

事同盟(締約國の意志と希望に反して、若し締約國の一方が一國乃至二國以上の第三國との間に紛争を生じたる場合、他の一方は直ちに同盟國となり、陸海空の凡ゆる軍事力を以て締約國を援助す。一九三五年五月)を結んで、當然獨伊樞軸の一としてドイツを援助すべきであるが、しかし英・佛がドイツに對して戦争状態を宣言しても、イタリアは何等の意志表示をなさず、寧ろ中立の態度をとり、而も九月十日にはラヂオを通じて「イタリアはヴェルサイユ條約の修正を要求し、ドイツの對波要求を支持するけれども、イタリアの利害は地中海にあり、ジブラルタルよりボスフォラス海峡までがイタリアの生命線であつて、ここに絶大の關心を有する。而してイタリアの中立は孤立を欲せず、他の國家と同盟することを辭せざるものであり、あらゆる事態に對應するため萬全の準備を完成し、國民の利福を希望し、國民の生命線確保のためには、地中海の生命線を確保せんとし、そのためにはヴェルサイユ條約の變更も要求するが、更にその生命線確保のためには英・佛獨如何なる國たるを問はず協同することを辭せない旨宣言したのである。これには深き理由のあることを見通してはならぬ。即ちイタリアはドイツと同盟しながら、ドイツがオーストリアその他二倍の國土を併せ、更にポーランドを領し、やがてはバルカンに進出せんとする形勢にあり、蘇聯がまたルーマニア・トルコ・ユーゴスラヴィヤ等のスラヴ民族を糾合してバルカンに進出せんとする形勢にあるに、イタリアのみは獨伊同盟を守つて徒らに獨蘇の強大と進出を傍觀するの愚を演じたのである。これはイタリアにとつて決して望まじきことではない。従つて獨蘇のバルカン進出はイタリアの最も警戒す

英・佛・伊の提携の可能性

るところであり、また最も神経を鋭敏ならしむるところといつてよい。茲からバルカン問題に對して英・佛と結ばんとする傾向も起り得るのである。なほイタリアは地中海制覇のため英・佛に對して要求するところが極めて多い。従つて英・佛がバルカン及び地中海に於てイタリアの望むところとある種の妥協をなし得るならば、そこに英・佛・伊の提携が少くとも獨・伊を離間して嚴正中立をなさしめ得るのである。かくして秘密裡に英・佛・伊外交交渉が續開されると風説さるるに至つたが、英・佛・伊提携は遂に事實となつて現はれなかつた。かくしてイタリアがドイツ側に加はるか、英・佛と提携するか、或は嚴正中立を守るかは戦局に決定的影響を及ぼすものであつて、その動向は極めて重要な意義をもつものといつてよい。

蘇聯の動向

次にまた蘇聯の動向も頗る注目し値する。蘇聯は既に獨蘇不侵略協定によつて獨波戦争に決定的影響を與へたのである。しかしながらそれが英・佛對獨戦争に於てもまたドイツと軍事的協同動作をとるか否かは大いに疑問とするところである。何となれば獨蘇間は經濟協定によつて恰かもアメリカが英・佛に與ふる如き經濟的援助を與ふるものではあるけれども、不侵略協定は相互に相犯さず、對獨國家群に加盟せざることを約したのみであつて、積極的に軍事的援助を與ふるものではないからである。従つてドイツが對英・佛戦争に軍事的援助を乞はんとすれば、新協定を必要とする。けれどもそれは蘇聯の望まぬところであらう。何となれば戦争によつて自國の經濟力と國民とを消耗し

蘇聯の眞意

ながら、戦勝によつて得るところは期待出来ないからである。それよりも蘇聯は英・佛獨を戦はせて三國が共に疲弊するを俟ち、一舉に自己の勢力を擴張して歐洲制覇を企圖することが賢明な策であり、また英・獨が戦ふ間にバルト海諸國・バルカン諸邦・中央アジアに進出してその勢力を伸張することが遙かに策の得たものといふことが出来る。かくして蘇聯は軍事的にドイツを援助せず、その間隙に乗じて北歐と南歐に進出する策をとるであらう。これがまた外交界に大きな波紋を起すこととなるのである。

蘇聯の北歐進出 かくて英・佛對獨戦争は九月三日に戦争状態に入りながら陸海空に於て戦争らしきものは殆どなく、只管宣傳戦と外交戦のみに終始し所謂「神經戦」に没頭してゐる間に、蘇聯は北方に於て著しき活動を起して着々その地歩を占め、その最初にバルト海諸國を侵略し始めた。

バルト海諸國事情

バルト海諸國とはフィンランド (Finland)・エストニア (Estonia)・ラトヴィヤ (Latvia)・リトワニア (Lithuania) の四國である。フィンランドとエストニアは共にウラル・アルタイ民族 (Ural-Altai) のうちウイグル (Wigul) 族の一派であり、ラトヴィヤとリトワニアは共にスラヴの一派であるが、何れも人口は少く文化は低く、農林業を主として木材・パルプ・穀物を出し、ラトヴィヤのみは商業が盛にして首府リガ (Riga) は蘇聯平原を背景とする輸出港として重要なところである。何れも世界大戦前は舊ロシア帝國に屬してゐたのを、ヴェルサイユ會議の時、民族自決主義とロシアの

勢力を殺がんとすることから英・佛が後援して獨立國となつたもので、國力は何れも弱小で、強國の援助なくしては獨立を保ち得ざる國家である。蘇聯はこれらの土地を喪失したるがためバルト海沿岸には殆ど領土と良港がなく、經濟上軍事上に多大の不便を感じ、常にその奪還を企圖してゐたのである。かくして英佛蘇會談が行はるる頃は、四國が英・佛側に頼り、英・佛もまたこれを援助して蘇聯にその獨立保障を要求し、そのため會談が停頓する重因をなしたといはれてゐる。それを獨蘇不侵略協定の際ドイツが默契を與へたので、蘇聯は直ちに活躍を始むることとなつたのである。

對エストニア要求
蘇聯はポーランド問題解決の曙光を見たる九月二十三日、早くもエストニアに對して重大要求を突きつけた。エストニアは重大會議を開いた結果止むを得ずこれを受諾することとし、二十九日相互援助條約に調印することとなつた。即ち兩國は互に軍事的援助をなすことを約し、蘇聯は武器軍用資材を供給すると共に、海岸の諸島嶼(サレマール島及ビヒウマー島)とバルディスキー (Paldiski) 港に飛行場及び海軍根據地を建設せしむることを約せしめた。これは相互援助を旨としながら蘇聯の支配をうくるものなることはいふまでもない。ついで蘇聯政府は十月三日ラトヴィヤに對しても相互援助條約を結ぶことを強要し、且つ蘇聯の國防を安全ならしむる目的をもつて、リバウ (Libau) ウィンダウ (Windau) 等に海軍根據地・飛行場・砲臺等を建設することを認めしめた。更にまた同日リトワニヤに對しても懸案となつてゐた境界線を改定し、國境防衛のため相互に軍事的援助條約を結ばしめた。

對フィンランド要求

かくて最後に十月十一日フィンランドに對してその國境に大軍を集結してこれを威嚇しながら、領土の割讓と相互援助條約の締結を強要した。しかしながらフィンランド人は東洋人種であり、その國力も前三國よりは遙かに強大であるから、強硬なる態度を持して領土的要求を拒絶し、そのためには開戦をも辭せざるの決意をなすに至つた。のみならず蘇聯のバルト海進出はスウェーデンの最も脅威を受くるところであり、ノルウェー・デンマルクもまた不安を感じるものであるから、三國元首はフィンランドの獨立保全を尊重すべく蘇聯政府に要請するところあり、またスウェーデン王グスタフ五世 (Gustav V) はノルウェー・デンマルク及びフィンランド大統領を招いて四元首會議を開き、フィンランドの獨立保全に努力すべきことを約した。従つてフィンランド問題のみは益、紛糾を重ねて風雲急を告ぐるに至つたのである。

四元首會議

蘇芬戰爭

かくして十一月三十日蘇聯はフィンランド政府に最後通牒を發して全面的降伏を勸告したが元よりフィンランドは應ぜず、南方國境附近に於て猛烈なる激戦が展開されることとなつた。その首府ヘルシンキ (Helsinki) を始めとして、各地の軍事施設も爆撃されたが屈せず、カリオ (Calio) 大統領はマンネルハイム (Mannerheim) 元帥を起用して總司令官に任じ、必死の抗戦を續けた。蘇聯は十六箇師團の兵力と機械化部隊及び千五百臺の飛行機を出動せしめて強攻撃をとつたが、勇猛果敢なるフィンランド軍は少しも恐れず、防戦功を奏して遂に蘇軍は意の如く進出する能はず、兩

軍對時のまま年を越すに至つた。これは明らかに蘇軍の敗戦を意味するものといはれてゐる。

バルカンの外交戦 蘇聯のポーランド侵入の報を聞いて驚いたのは、バルカン地方に於けるル

ルーマニヤ國
情

ーマニヤとトルコであつて、蘇聯の手が直ちにこの方面にも進出することを豫期したのである。ルーマニヤは元來ラテン民族の住むところであり、カトリック教を信するもの多き國であるから英佛とは友好關係を持続し、世界大戰後はヴェルサイユ條約によつて蘇聯よりベッサラビヤ (Bessarabia) を、ブルガリヤよりはドブルヂャ (Dobruja) 地方を、ホンガリヤよりはトランシルヴァニア (Transylvania) を與へられて國土を擴げ、所謂小協商國の一として英佛支援の下に重きをなしてゐたのである。然るにドイツのチッコ併合以來その東方政策によつて次第に壓力が加はり、且つ英佛の支援は事實上不可能に近きため、むしろドイツに屈服してその安全を計らんとする傾向が顯著となつた。ドイツはルーマニヤの石油・鐵・穀物等を目標として一九三九年三月チッコ合併直後經濟協定を結んだが、更にナチス黨員の潛入が次第に顯著となり政治團體までも出現するに至つた。そのため獨波戰爭直後反亂が起つて首相暗殺等の事件があつたけれども、間もなく平靜に歸した。しかしながらルーマニヤは常に蘇聯の進出に脅へてゐるのである。即ち蘇聯の傳統政策たるバルカンのスラヴ民族糾合及び南下政策が何時その鋒先を向け來るやも測られず、またヴェルサイユ條約による彼の失地ベッサラビヤ回復のため軍隊を進ませしめられる危険は極めて濃厚なのである。しか

ルーマニヤを
繞る獨・蘇・伊

トルコの問題

しながら蘇聯のルーマニヤ進出を好まざるものにドイツがあり、英佛があり、更にイタリアがあることは注目しなければならぬ。特にイタリアは蘇聯がルーマニヤ・ブルガリヤ・ユーゴスラヴィヤのスラヴ民族を糾合して勢力を張ることは、折角ドイツと默契せし南のバルカン進出を畫餅せしむる虞あるがために、最も反對するところである。従つて蘇聯の南下は未だ實現の運びとならないのである。若し茲に何等かの變化が起れば直ちに歐洲の外交界に著しき影響を及ぼすに至るであらう。

英佛土條約

ついでトルコが問題の渦中にある。トルコに對しては既に蘇聯と英佛とが並行して相互援助條約を締結せんとして交渉を進めてゐた。言ふまでもなく蘇聯はトルコを懷柔してバルカン及び地中海に進出せんとするものであり、英佛はこれを阻止せんとする交渉をなしてゐるが、何れが勝利を占むるかは今後のバルカンに於ける大勢を制するものとして極めて重要視するべきものである。然るにその結果十月十九日英佛側に凱歌があつたことがイギリス下院に於て發表せられた。その内容の主なるものは、(一)歐洲の一國がトルコに對して侵略行爲に出たる場合、英佛はこれを援助す。(二)歐洲の一國による侵略行爲が英佛をも包含する地中海戰爭となりたる場合、ギリシヤ及びルーマニヤに與へたる英佛の保障が犯されて戰爭となりたる場合、トルコは英佛を援助す。(三)歐洲の第三國が侵略をうけ英佛土三國の安全が脅かされたる場合、英佛土は直ちに協議を行ふ。(四)トルコは蘇聯の參加する戰爭には本條約による義務履行の要なし。(五)本條約の有効期間は十五箇年とす等であ

つて、これは英・佛外交の大成功であるといつてよい。その結果蘇聯は既に交渉中なりし蘇土會談を打ち切り、獨・伊は頗る不満の色を見せた。けれども蘇聯はなほ執拗にその南下政策を固執し、獨・伊もまたこれに重大關心をもつてゐるから、英・佛側今回の勝利もこれを以て獨・伊屈伏の一石となすことは勿論出來ないのである。

東歐・北歐問題の進展 一九四〇年に入り獨對英佛が未だ本格的戦闘を開始せざる間に、バルカンにては四國協商會議、北歐にては蘇芬戰爭といふ二つの事件が起つた。

バルカンに於けるトルコ・ルーマニア・ユーゴスラヴィヤ・ギリシヤの四國は既に一九三四年以來四國協商を結んでバルカンの現状維持及び相互の國境保障を約し、毎年一回定期的に會合をつづけてきた。然るに國際關係の緊迫せる昨今の状況を顧みて、今年の會合が第三國を刺戟して紛亂の渦中に投ぜられんことを虞れ、その開催が危まれた。即ちこの四國協商による現状維持に對して英・佛（現状維持國）は賛成であり、蘇・獨・伊（現状不満國）は反對であつた。即ち英・佛はこれを以て蘇聯の南下防止と獨・伊の進出阻止及び經濟封鎖の障壁たらしめんとするためであり、今回も既に相互援助條約を結んだトルコを手先として他の三國に英・佛と相互援助條約を結ばしめんとしたともいはれ、またホンガリヤ・ブルガリヤを加へて六國の侵略防止同盟組織を提唱せしむる計畫があつたともいはれ、更に經濟中立地帯結成案を出して對獨經濟封鎖をなさしめんとしたともいはれてゐる。これに對し

バルカン問題

英・佛の政策

ドイツの政策

蘇・伊の要望

てドイツは現状不満國としてこの協商の存在を喜ばず、ルーマニア・ユーゴスラヴィヤ等に對して「英・佛と聯繫あるトルコと協商を維持することは三國にとつて不利であらう」と力説し、暗にドイツの強壓を示唆して離間工作を行つた。蘇聯はルーマニア及びトルコに對する野心遂行のため、かかる協商の繼續は勿論希望せず。イタリヤは本年一月ホンガリヤとの間にヴェニス會談を行ひ、兵力を以て蘇聯のホンガリヤ侵入を阻止することを約し、またホンガリヤのためルーマニアとの國境を改正せんとするに好意を見せ、更にユーゴスラヴィヤとは既に早くより提携して英・佛の優勢を制壓せんとする意圖をもつてゐた。従つて會談の成行如何によつては、茲から如何なる大波瀾が生ずるやも測り知れなかつたのである。

四國會議開催

しかし會議は當事國の熱意によつて開催せられた。即ちトルコは英・佛を背景として諸種の提案を試みんとし、ルーマニアはその領土を蘇聯・ホンガリヤから侵略（實は奪還）さるることを恐れ、その安全保障を四國協商によつて求めんとし、かくて二月二日より四日に亙つてユーゴスラヴィヤの首都ベルグラード（Belgrade）に於て開催された。けれども會議に於ては現状を強化しまたは破壊せんとする提案は殆ど容認せられず、例へば對獨經濟封鎖を主張するトルコの提案はユーゴスラヴィヤの拒否にあつて成立せず、トルコを孤立せしめんとするドイツの策謀も列國の容るるところとならず、かくして従來の如き現状維持（從來の四國間に於ける平和秩序と安全保障を確保し、如何なる戰爭の波及をも防止し、相互の獨立と權益擁護及び通商取引を更に一層緊密化する）

効果は期待薄し

ること等を)が再約され、更にこれを七箇年延長することとした。その結果バルカン四國の獨立と國境再確認(再確認)が安全保障され、蘇獨伊の政治的・經濟的進出企圖は挫折し、英・佛側にとつて有利な形勢が展開されたかの如く見らるるに至つた。けれどもこれは極めて皮相な觀察であつて、彼等四國には何等の強力なる軍備を有せざるがため、その安全は容易に脅威さるべく、また相互に軍事的援助をなす程の鞏固なる攻守同盟を締結する能はず、而も蘇獨伊等の大軍が侵略する時遠隔にある英・佛が殆どこれを援助すべき方策なき状態なるが故に、これは極めて脆弱なる協商といふことが出来、バルカンは相變らず累卵の危きにあると見てよいのである。

蘇芬問題の解決

マンネルハイム線に對峙したまま年を越した蘇芬戦争は、一九四〇年に入つ

て政戦兩面共に次第に活潑な動きを見せてきた。先づ政治・外交上に於ては前年(一九三九)十二月國際聯盟がフィンランドの提訴によりこれを審議し、蘇聯に戰鬪行爲の停止と和平勸告を行つて拒絶さるるに及び、遂に蘇聯を除名した。これは言ふまでもなく英・佛兩國が主動者となれるものであり、やがてパリにはフィンランド援助本部が設置せられて武器・軍需資材等が輸送さるることとなつた。しかし蘇聯は國際聯盟より除名されたことによつて却つて行動の自由を得たと嘯き、愈、積極的軍事行動をとることとなつた。またスウェーデン・ノルウェーは最初蘇聯の勢力がやがて自國にも進出するを恐れて、フィンランドを防火壁たらしめんとし、義勇軍・武器等を送つてこれを援助した。けれども

國際聯盟の動き

フィンランドと各國の態度

蘇芬戦争

も軍事的援助に對する蘇聯の抗議とドイツの獨蘇友好關係による威嚇により、瑞・諾二國共に再び嚴正中立を守ることとなり、フィンランドよりの援助懇請に對してもスウェーデン政府はこれを拒絶した。英・佛の對芬武器輸送及び義勇軍派遣も、海上に於ては獨蘇によりて封ぜられ、瑞・諾二國を通過せしむる時はドイツがこれを容認し得すと主張するため、殆ど實行不能の状態にあつた。

かかる外交的環境に於て蘇聯は二月十日頃より總攻撃を開始した。蘇聯は十分なる戦備を整へ四十箇師に及ぶ兵團を集結して南方カレリヤ (Karelia) 地峡方面より猛攻撃を始めたので、フィンランド兵は抵抗する力なく、次第に後退してマンネルハイム線の一部が崩壊し、フィンランドの敗色は鮮かとなつた。これは即ちフィンランドは蘇聯に比して兵力軍備ともに問題とならず、而も英・佛の援助は殆ど望なく、瑞・諾二國も列強の壓力によつて援助せず、到底勝算が成り立たないためである。茲に於てスウェーデン政府はフィンランドの滅亡がやがて自國への脅威を増すものなるを自覺し、自ら進んで和平調停の勞をとることとなつた。かくて三月十二日、蘇都モスコに於て和平協定が成立し、(一)フィンランドはカレリヤ地峡・中部國境(メルキヤル)・北極洋の小半島(リバチ及びスレド)を割讓し、(二)ハンゲ (Hangö) 半島を三十箇年蘇聯の租借地とし(蘇聯はこれを軍事的根據地とす)、(三)兩國は相互不侵略を約し、第三國との同盟に加入せず、また一方を目標とする如何なる國際聯合にも加はらざることを約した。かくしてこの和平協定は蘇聯の北歐進出を一時中止せしめたものではあるけれども、

蘇芬協定

北方に於ける休止は、やがて蘇聯のバルカン中央アジア進出を可能ならしむべく、また對英佛本土を目標とするドイツは戰禍の北歐に擴大せざりしことを喜び、英佛はフィンランドを援助し得ざる無氣力を暴露し、フランス内閣はそのため總辭職を行つた。しかし英佛がフィンランドを援助して蘇聯の恨を買ふことは却つて不得策であつたといふことも出来るであらう。

四 經濟戰の展開

前哨戰と經濟戰 一九三九年九月獨對英佛の戰爭宣言があつてから、一九四〇年四月本格的戰闘が開始されるまで約八箇月の間は、宣傳戰や外交戰は華やかに展開されたけれども、武力戰は殆ど行はれず、僅かに飛行機潜水艦等の活躍があつたのみで、所謂前哨戰の域を出ない。けれども外交戰と並行してその間に經濟戰が猛烈に行はれてゐたことは見遁すべからざる事實であり、國內に於ては兵備軍需等に着々戰闘準備を凝らしてゐたのである。

前哨戰 前哨戰として陸上に於ては一九三九年九月、佛軍がマジノ線を越えてザールブリュッケン方面に進出し、ジークフリード前線を攻撃したことがあつたけれども、まもなく退却して兩軍とも要塞に對峙するのみで、何等の軍事的行動を見せなかつた。やがてドイツ軍はオランダ國境に大軍を集結して一舉に國防線を突破し、以てフランスに向はんとする噂がたつたが、これは事實となつて現はれなかつた。また戰爭宣言と同時にイギリスの飛行機がドイツ上空に現はれたけれども、宣

前哨戰と經濟戰

陸上前哨戰

傳ビラを撒布せるのみにて引返した。かくして殆ど戰爭らしき活躍は見られなかつた。

海上前哨戰

ただ海上に於ては潜水艦と飛行機の活躍が稍盛であつた。即ち九月十八日(一九三九)には獨潜水艦が英商船隊を護衛中の航空母艦カレヂアス號(二〇、五噸)を、十月十四日(一九三九)には英戰艦ローヤルオーク號(二九、一噸)をスカバフローウ(Scapa Flow)軍港に於て撃沈し、また獨飛行機は九月二十六日(一九三九)北海に於てイギリスの戰艦航空母艦巡洋艦等を襲撃し、十月十六日(一九三九)には十數機の爆撃隊がスコットランドのファースオプフォース(Firth of Forth)灣を空襲して多大の損害を與へ、また潜水艦豆戰艦等は北海及び大西洋に活躍して商船を撃沈し、一九三九年末までにその數は三百隻を突破するといはれた。しかしドイツの一萬噸級豆戰艦シュペー號は太平洋及びアフリカ沿岸に於て英佛商船十餘隻を撃沈したが、南アメリカ沖合に於てイギリス軍艦に追跡され、ウルグアイのモンテヴィデオ(Montevideo)港に遁入し、やがてその港外に於て自爆した。しかしながらこれらもまた本格的戰闘といひ得る程のものではなかつた。これに反して次第に激化していつたのは經濟封鎖戰である。

經濟戰 武力戰と共に經濟戰が重要な役割を演ずることは、現代戰が科學戰であり機械化戰であること、及び國家總動員戰であるがためである。勿論古代より戰爭には武器・彈藥・糧食・傭兵運輸その他の戰費を加へて、經濟が勝敗に及ぼす影響は極めて大であつたけれども、現代戰に於ては軍需

經濟と戰爭

經濟戰の起る所以

資材が極めて廣汎に互るのみならず、直接戦闘に必要なものと共に國民すべての生活資料をもこれに包含せざるべからざるものなるが故に、經濟力は更に一層勝敗を左右することとなるのである。更にまた現代何れの國家に於てもすべての經濟的資源を國內に於て獲得することは至難で、食糧工業資源・動力資源等のうち何等かの點に於て不足するものあり、また製産品を輸出することにより始めて國民經濟の均衡を得んとするものもあるため、海外諸國と交通運輸せざれば經濟力を充實強化することが出来ない情態である。従つてこの缺點に乗じて敵國の經濟に打撃を與へ、以て戰局をその背後より破壊せんとする策に出づるのである。

ドイツの對英經濟戰

通商破壊戰 かくてドイツは英佛に對して通商破壊戰をとり、英佛はドイツに對して海上封鎖戰をとつた。即ちドイツは潜水艦・軍艦・飛行機等を北海・大西洋上に派して英佛商船を撃沈し、英佛の主要航路たる對北米・南米・南阿・濠洲・印度ルートは大西洋上に於て、また對歐航路を北海その他に於て脅かした。これによつてイギリスの最も必要とする食糧品(輸入總額の四五%)・工業原料品(輸入の三〇%)の輸入及び工業製品その他の輸出を妨害せんとした。そのためドイツは一九三九年九月より一九四〇年一月末までの間に敵商船四〇九隻・二、四九三、〇〇〇噸を撃沈または拿捕した(ドイツ國防軍當局發表)。従つて英佛側も通商及び經濟上に著しき損害をうけたといはれる。

經濟封鎖戰 これに對して英佛の海上封鎖戰は最も大規模なものであつた。戰爭宣言と同時に

英・佛の對獨經濟戰

イギリスはフランスと協同して海上封鎖を行ひ、主力艦を北海に集結し、哨艦(驅逐艦・水雷艦等)・飛行機等によつて絶えず海上を監視し、また重要地點には機雷を敷設してドイツ船舶及びドイツ向の中立國船舶を阻止した。従つて北はノルウェー海岸より南は白蘭海岸に亘り、ドイツ向船舶と貨物は撃沈・捕獲・沒收さるもの多く、ドイツへの輸入は大打撃を被るに至つた。更に十一月二十八日(一九三九年)獨貨拿捕令を公布して、(一)ドイツ及びドイツの占領または支配下にある港より出發せるすべての船舶は、その港に於て積載せるすべての貨物をイギリスまたは聯合國の港に荷揚げすることを要求せらるべく、(二)またドイツ産の貨物及びドイツ所有の貨物を積載せるものもまた荷揚げを要求せらるべしと宣言した。これによつてドイツより輸出するすべての貨物は、それが如何なる國に向ふものなりとも盡く英佛の拿捕するところとなるものであつて、ドイツ貿易にとつては一大打撃たると共に、從來ドイツより輸入を仰ぎたる國にとつても影響するところが大きかつた。かくて英佛は北海方面に於てドイツの輸出入を阻害し得たけれども、これを以て完全にドイツを經濟封鎖するまでに至らなかつたので、更に外交的經濟封鎖を試みるに至つた。即ちドイツに對しては北海の外になほ北歐ルート(バルト海を繞るノルウェー・スウェーデン・デンマークを中心とし、鐵木材・バールカンルート(ルーマニアのルブ・陸路等の補給路である。蘇聯・フィンランド等は英佛の手が及ばない)・石油・穀物等は最も重要であり、且つこの地方はドイツの重要なる輸出國である)・地中海ルート等の經濟路が考へらる。右のうち地中海ルートはイタリアが介在するために容易にその成功は見ないけれども、バルカン及び北歐ルートには外交的交渉

外交的經濟封鎖

地中海ルート

バルカンルート

の餘地を存した。即ちバルカンルートに於てルーマニヤに産する石油はドイツの最も垂涎するところであり、而も事實に於て盛に輸出せられてゐたから、これを防止してドイツの重要な軍需資源を不足せしめんとし、十一月二十八日^(一九一九)にはルーマニヤ・エジプト通商協定を成立せしめてルーマニヤの石油とエジプトの棉花米等を交換せしめ、更に二月頃^(一九一九)よりは英佛系資本を動員してルーマニヤ石油の買占めを行はんとさへするに至つた。また北歐ルートに關しては蘇聯及びバルト海より來るものは到底英佛の及ばざるところであつたけれども、ノルウェーに對する英佛の壓迫は次第に加はり、ドイツ船がノルウェー領海を通過して北方より鐵・鑽石等を運搬する輸送路を武力によつて遮断せんとする態度を示し、その驅逐艦は頻繁にその領海内に出沒するに至つた。

北歐ルート

對獨經濟封鎖の強化

かくて英佛の對獨經濟封鎖は四月^(一九一九)に入つて益々強化されていつた。即ちイギリス政府は大蔵省の出资によつて「イギリス商事會社」を創設し、これを國策會社として先づバルカン諸邦^(アルガリア・ハンガリア・ルーマニヤ)との貿易を專管せしめ、その地方の物資を買占めて英佛側に取入れ以てドイツに對する陸上封鎖を強化せしむることとした。また北歐ルートのスウェーデン・ノルウェーに對しては、對獨鐵礦供給の制限、兩國領海のドイツ海軍による使用禁止を強要し、蘭・白兩國に對してはドイツ向け重要物資の輸出制限令を發布せしめ、更に新たに極東ルート^(太平洋シベリヤ鐵道を通じてアメリカ・蘭印等より機械類・銅・ゴム・アチモニー等)に於ては浦鹽經由の對獨輸送物資を遮断するため、太平洋に於ける船舶の臨檢を強化す

北歐に機雷敷設

る意圖あることを仄かし、そのため軍需品^(鋼・眞鍮・一般機械類・飛行機用)を満載して浦鹽に向へる米船ワイルドウッド號は警告によつて太平洋中よりアメリカに歸還した。従つて英佛側が採つた今回の經濟封鎖強化は、ドイツに大打撃を與ふるものであることは言ふまでもない。更に四月八日^(一九一九)には英佛共同宣言を發して、兩國政府はドイツがノルウェーより原料資源を獲得しまたはドイツ船舶のノルウェー領海通過を許容する如き一切の行爲を阻止するため、必要なる手段をとる凡ゆる權利を留保すること、戦時禁制品を輸送するドイツ船のノルウェー領海航行を阻止すること、スタッドランド^(Stadland)・ヴェストフィヨルド^(Vest Fjord)・ブド^(Bud)附近^(共にノルウェーの西海岸の中部)の領海内に機雷を敷設することとし、従つて同地航行の船舶は自己の危険に於てこれを爲すべしと公表した。即ち英佛側はこれによつて北歐ルートを遮断し、ノルウェーより輸出さるるドイツ向け鐵・木材等の軍需資材を杜絶せしめんとしたのである。しかしながら他國の領海に軍事的施設をなすことは、その國の主權を侵害するものであると同時に、國際公法に違反するものであり、而も今次の大戦に於けるノルウェーの中立宣言を無視するものである。従つてノルウェー政府は、直ちに嚴重なる抗議を提出したが、ドイツはこれに對して言論・文書等による對英佛抗議を差控へ、翌九日拂曉を期して所謂「北歐電撃戰」によつてデンマーク・ノルウェーへの進撃を開始し、茲に第二次歐洲大戦の本格的戦闘がその序曲を奏するに至つたのである。

北歐電撃戰

北歐戰局

ブレンネル會談

ドイツが北歐に戰局を擴大する前、ヒットラー總統とムツソリーニ首相とが三月十八日(四〇)獨伊國境ブレンネル (Brenner) 峠附近ボルツァーノ (Bozano) 驛の車中に於て重要會談を行つた。この會談は恰かもアメリカ大統領の特使ウェルズ (Wells) が歐洲の平和を打診せんとして英佛獨伊を訪問せる直後であつたから、或は平和工作のためならんとも噂されたが、ドイツ當局の發表によれば「ブレンネル會談は獨伊蘇三國の諒解に基づく歐洲新體制の樹立に關しその前提をなすもの」であり、而も傳へらるるが如き平和工作説は全然根據なく、ドイツは飽くまで英佛に對して絶對的勝利を確信するものであると附言し、更にまた歐洲の正しき平和は我等の軍事的勝利によつてのみ得らるるものであり、而もドイツは最後の勝利に至るまで戦ひ抜く決意を有する旨を明らかにした。従つてブレンネル會談も獨伊樞軸の再強化と蘇聯及びバルカンに對する共同工作を決定し、更に英佛に對するドイツの強硬決意を批擡して共同作戰に關する最高策を決定したのであらうと見られてゐる。かくしてドイツは飽くまで戰爭遂行を決意して萬全の準備を整へてゐた時、英佛側の封鎖強化と機雷敷設が行はれたので、茲に敢然として立つこととなつたのである。

北歐の價值

一般に北歐諸國特にスウェーデン・ノルウェーはドイツにとつて生命線の一をなすものである。即ち經濟上より見てスウェーデンの鐵はドイツ需要の五三パーセント(輸入年額約六百萬噸、大部分はノルウェーの

ドイツと北歐との經濟的關係

ドイツの決意

ブレンネル會談

軍事的關係

ナルヴィックより輸出し、北海を滿たし、兩國の木材・パルプ・紙等はドイツの欲する重要資源であり、ノルウェーの海産物及び鯨油もまた重要なものであつた。のみならずドイツ工業品(機械類・自動車・織物類その他)の重要市場である。従つて兩國に英佛側の勢力が及ぶことはドイツの最も苦痛とするところであり、殊に機雷敷設による海上交通の遮断は鐵・パルプ・鯨油等の輸入に當面の打撃が與へらるることとなるのである。次に軍事上より見るとき、英佛側がノルウェーを支配し、やがてスウェーデンをもその勢力下におく時は、北方に強敵を作つて英佛本土を衝くための一大支障となる。従つて積極的にこれをドイツが支配する時は無数のノルウェー峽灣を潜水艦及び飛行機の基地たらしめて、北海及び大西洋上の活躍及びイギリス攻撃に有利なる地域を獲得することとなる。かくてドイツは早くより北歐進撃を準備し、竊かに機會の到來することのみ待つてゐたので、そこに英佛側の機雷敷設を見て機敏に活動を開始することとなつたのである。

北歐電撃

四月八日(四〇)午前五時イギリス政府がラジオを通じて機雷敷設を宣言すると、翌九日午前零時半にはドイツ軍艦四隻が多數の運送船を護衛してノルウェーの首都オスロ (Oslo) に現はれ、更に他の艦船は西海岸第一の要港たるベルゲン (Bergen) 及び中部の要衝トロンドハイム (Trondheim) へ、また遙かに北方のナルヴィック (Narvic) へも進撃し、何れも敵前上陸を敢行してその日の午前中完全にこれを占領した。また同日午前五時にはデンマルクの首都コペンハーゲン

北歐進撃

敵前上陸と無血占領

(Copenhagen) にも陸戦隊を揚陸して直ちに同市及び附近一帯を占領した。この見事なる上陸作戦と無血占領については飛行機による飛行場占領と落下傘部隊の活躍、更に後続部隊の空中輸送と弾薬糧食の補給及び敵空軍の撃退等もまた與つて大なる力があつたといはれてゐる。かくの如く僅かに數時間を出ないうちに敵の重要都市と中樞機關とを占領して二國を完全に制壓したドイツの作戦は、誠に「電撃戦」として世界を驚嘆せしめたが、これはドイツが早くより精密な調査と周到なる計畫の下に萬端の準備を整へ、機を見て一氣に遂行した賜によるものといつてよからう。

ドイツの諾・丁通牒

ついでドイツはノルウェー・デンマーク兩國政府に向つて「ドイツ今回の措置は、英佛側の中立國侵犯(機雷敷設の事實及び英・佛が諾・丁等の中立國をして對獨戰を強制せしめんとする)に對抗して經濟的・軍事的見地より武力行動を採るの止むなきに至つた。しかしながらこれは兩國を將來起り得べき戦禍より防衛せんとするものであり、またドイツは經濟的見地と軍事的基地に使用する以外その領土的完整と政治的獨立を侵犯するものではない」と通告した。これに對してデンマークは直ちに應諾の意を表したが、ノルウェーは直ちにこれを拒絶して對獨宣戰を通告し、同時にまた英佛に向つて保護を要請した。そこで英佛兩國内閣は共に對諾援助を決議して公式聲明を發し、更に遠征部隊を編成して救援に赴かしめることとなつた。ここに於て獨英兩國の開戦は必至となつた。

獨英戰團 戦争は最初ノルウェー沿岸の到るところに於て海戦が行はれた。それはドイツの上陸

ノルウェーの對獨宣戰

北歐海戦

軍と運送船隊を破砕せんとするものである。ナルヴィック附近に於ては兩國驅逐艦の猛闘があつて各、數隻が沈没破損した。オスロ附近に於ては運送船を護衛する兩國の大艦隊が衝突して、雙方に巡洋艦數隻、驅逐艦、潜水艦、運送船數十隻の損失があつた。ところが四月十四五日になつて、英佛側の大部隊を満載する輸送船團が主力艦隊に援護されてノルウェー海岸に近づいて來た。彼等は各方面に別れて上陸せんとしたものであることは言ふまでもない。けれども海軍に於てドイツは英佛の敵ではなかつたこと、最も精銳を謳はれた飛行機が天候のため十分活躍出来なかつたこと等によつて、南部地方への上陸はこれを阻止し得たけれども北方ナルヴィック附近・ロフォデン諸島(Lofoden)及び中部トロンドハイム附近・ナムスス(Namsos)等に於て英佛軍の上陸を見た。従つてこの頃より陸上の各地點例へばナルヴィック・トロンドハイム及びその中間地方に於ては、飛行機の空爆空中戦は勿論、上陸軍とドイツ軍との間に於ける鐵道都市の爭奪戦が盛に展開され、海上に於ても到るところに激戦があつた。けれども上陸英佛軍は訓練も不十分なる上戦團に馴れず、精銳なるドイツ軍の敵ではなかつた。従つて五月上旬には中部戦區に於けるナムススより撤退して全員乗船を完了し、ノルウェー軍司令官もまた降伏を聲明して全軍に抵抗を止むるやう命令し、北部戦區のナルヴィックのみ僅かに抵抗を續けることとなつた。かくしてドイツは完全にノルウェーをその軍事的占領下におくことが出來たのである。

陸上戦

ノルウェー占領

ドイツの利點

北歐戰の影響 この北歐戰に於ける勝利がドイツに及ぼす効果は極めて大であつた。ドイツは既に述べたるが如く經濟上に於て北歐の鐵と木材と海産物及びデンマルクの農産物・乾牛酪を得て軍需食糧資源を豊かにし、外交上に於ては英佛の勢力を北歐より驅逐してその勢力圏を擴大し、軍事上に於ては有力なる空軍及び海軍の基地を得た。例へばオスロ及びスタヴァンゲル(Stavangel)よりイギリス海軍の主要基地スカパフロー(Scapa Flow)までは僅かに五百軒、ロンドンまでは九百軒に過ぎず、従つてイギリス東岸までは僅かに一時間乃至一時間半の航程となつたのである。のみならず沿岸各港は峽灣なるが故に水深く、最もよき潛水艦基地である。従つてドイツにとつてはイギリス東海岸を包圍し得る屈強の地域を獲得することとなり、今後の對英作戰に極めて有利な形勢となつた。

英・佛の策謀

そのため英佛側には二つの大きな影響があつた。(一)北歐戰に關聯して英佛側はバルカン戰を行はしめんとした。即ち北歐戰の展開さるるにつれ英佛側はバルカン及び地中海に事を構へてこれを牽制し、中立國を確實に懷柔して對獨經濟封鎖の強化に努めんとし、英佛艦隊をエジプトのアレクサンドリヤに集結せしめ、且つ地中海航行の英船に引揚歸航命令を發した。このことは地中海より對獨經濟封鎖を強行し得ると共に、トルコ及びバルカン諸邦を強壓し、その風雲急なるを思はしむるものである。しかしながらこれによつてイタリヤの神經を極度に刺戟して、英伊佛伊關係を

英内閣の更迭

尖銳化せしむるに至つたが、ドイツはこの緊迫せる地中海問題の隙を睨つて第二次電撃戰を開始せんとしたのである。(二)また北歐戰はイギリス内閣を動搖せしめた。即ち北歐戰はイギリスの明らかな失敗であつたから議會に於ける批難攻撃は著しく、労働黨は政府の無能を痛罵して不信任案を上程し、前大戰の雄ロイドジョージ(Lloyd George)もまた立つて熱辯を振り、チェンバレン首相の挂冠と戰時強力内閣の出現を絶叫した。チェンバレン内閣は信任投票によつて一時この難局を切抜けたけれども、大勢は遂に如何ともなす能はず、五月十日總辭職を執行し、翌日チャーチル(Charhill)内閣が成立することとなつた。この更迭は平和的妥協的にして緩漫なる前首相を退け、戰鬪的積極的にして強硬なる新首相を迎へたのであつて、國民の輿論及び議會の空氣が對獨武力戰の決意を有することを反映したものであるが、而もドイツはかかるイギリス首腦部の動搖と國民の危惧に乘じて機先を制し、この機會を捉へて遂に蘭白進撃を敢行し、以て本格的な對英佛武力戰を執行せんとするに至つたのである。

イギリスの決意とドイツの進撃企圖

英・佛の蘭・白進駐とドイツの決意

しかしまた北歐戰勝の結果ドイツが最も危惧したことは、英佛側はやがて蘭白の中立を侵犯してドイツに迫るであらうといふことであつた。即ち北歐戰に敗れたる彼等は、對獨經濟封鎖の一角が崩壊したからこれを補強するため蘭白に對して一層強硬なる對獨策を要求すると共に、更に蘭白に侵入してドイツ工業の心臓部たるルール地方を占領する計畫を進むるであらう。英佛側はいま

東南歐・地中海及びバルカンに大作戦を起す如き形勢を示しながら、踵を返して蘭白作戦に集中し、直ちに急襲を敢行するであらうと豫測された。これはドイツにとつて致命的打撃でなければならぬ。偶、イギリス部隊が秘密裡に乘船して蘭白兩國に向つたとの情報があつた。フランスもまたベルギーに兵を進駐せしめてゐた。従つてドイツは優先的に蘭白の中立を保護し、ドイツの安全を確保するため、蘭白侵入を決行するに至つたのである。

○獨對英佛陸上戦

獨軍の蘭白侵入 ドイツはポーランド作戦終了後、對英佛攻撃に關する萬全の準備を整へ、蘭白をその攻撃の第一目標として既に十月頃(一九一九)よりルクセンブルグ公國以北の對蘭・白國境に八十箇師約百五十萬の兵力を集結し、空軍・機械化部隊を整へて待機してゐた。かくて北歐戦勝の軒昂たる意氣を以て、イギリス朝野の意氣銷沈と内閣の動搖及び英・佛側の東歐作戦による海軍の地中海集結といふ好機を捉へ、更に英・佛の蘭白進駐を見て再び電撃戦を敢行することとなつたのである。

これに對するオランダの防備は、アイゼル (Eiser) 川を第一線、ユトレント (Utrecht) 南北の線を第二線、アムステルダム (Amsterdam) を最後の抵抗線とし、低地と大河(ライン・レック)を利用する廣大なる地域の洪水戦術を以てし、動員兵力約四十五萬を以て死守せんとした。ベルギーはまた第一次世界大戦の經驗に鑑み、必ず今回もまたドイツの攻撃あるを豫期して早くより獨力國

ドイツの攻撃準備

オランダの國防線

ベルギーの國防線

ヒットラーの布告と進軍

防の充實に努め、ドイツとルクセンブルグの國境に沿うて數多の前衛防備要塞を築くと共に、マース (Maas) 川に沿ふディナン (Dinant)・ナミュール (Namur)・リージュ (Liège) 等に最新式築城法を以て堅固な要塞を築き、後方防禦線と、更にリエージュ附近よりアンヴェルス (Anvers, Antwerp) に達するアルベール (Albert) 大運河とシェルド (Schelde) 川とを連ねて北方防備線となし、これらを戦時動員七十萬の兵力を以て防禦することとした。

一九四〇年五月十日拂曉ヒットラー總統は將兵に對し激勵の布告を發し、「英佛の支配者達は三百年來歐洲に於ける眞の統一を阻止し、ドイツを弱國の地位に置くことを企圖した。今また蘭白侵入を企て、ドイツの心臓ルールを急襲せんとする。諸君には今活躍すべき秋がきた。ドイツ國民の今後一千年間にわたる運命を決すべき秋である。諸君は諸君に與へられたる義務を果せ。ドイツ國民は常に諸君と共にあるであらう。」と述べ、直ちに出動を命じ、アーヘン (Aachen) を中心として南北の國境附近に集結せる軍隊を以て、オランダ・ベルギー・ルクセンブルグの三方面より怒濤の如く進撃を開始せしめたのである。

獨軍の新戦術 ドイツ軍は既にポーランド・ノルウェーに於て用ひたる新戦術を茲では本格的に用ひた。それは空軍と戦車隊と機械化部隊との極めて巧妙な聯絡によつて、各、その機能を十分に發揮しながら完全なる立體戦によつて電撃的に戦果を擴大していつたのである。最初空軍が活躍を

新立體戦

飛行機と落下傘部隊

地上進撃

各兵種の最前線進撃

第五部隊

始むる。即ち進撃命令と同時に、飛行機が先づ出動して敵の重要都市要塞及び軍事的諸都市を爆撃破壊すると共に飛行機によつて落下傘部隊を輸送する(落下傘)。落下傘部隊は直ちに軍事施設を破壊占領し、飛行場を確保し、または味方に有利なる橋梁道路建築物その他の軍事的施設を保護する。而して飛行場には更に後續部隊を飛行機によつて輸送し(空輸)、更に敵陣深く突入して後方攪亂をなし、また保護された橋梁等によつて機械化部隊の通行に支障なきやうに圖つたのである。次に地上進撃については、敵陣に對して從來の如く最初に大砲を用ふることなく、強力な飛行機を以て急降下爆撃を加へ、必要に應じては後方の聯絡を粉碎し、時を移さず超重戦車や機械化部隊が快速を利し縦横無盡に機關銃火焰砲等を用ひて戰場を掃射し、更に深く後方の兵站部その他を衝く。かくて敵陣を混亂潰滅せしめると共に、歩兵部隊を進めて占領を確實にするのである。これは完全なる肉迫作戦であつて、司令官も從來の如く後方に位置せず、常に最前線に於て指揮する。即ち兵器が極度に機械化された結果、機動力(運動力)早く、戦況は刻々に變化するため、後方にあつては臨機應變の指揮をなす能はず、常に第一線に立つて命令する必要があるのである。また砲兵も從來の如く後方に居ず、機械化されて最前線に活躍し、工兵もまた寧ろ最前線にあつて、破壊架設の任務に服することとなつてゐる。更にこれに加へて獨軍には第五部隊(Fifth Column)が あつた。これは敵國の意にて、最初一九三七年イスマニヤのフランコ將軍がマドリッド攻略の際、我等は四箇の大部隊を有すると共にマドリッド市内には我等に味方する第五部隊があると稱したるによる)が あつた。これは敵

國在住のドイツ人・ナチス團または親獨的外人が、平時はナチスの宣傳と敵情スパイを行ひ、戦争となれば虚偽の宣傳放送をなして軍民の離間や民心の恐怖を起さしめ、または便衣隊として味方を有利に誘導するものである。

オランダ戦況

オランダに對してドイツ軍の主力部隊は國境より北部・中部・南部に分れて突入す

ると共に、逸早く海・空兩方面より敵の心臟部を衝く計畫を立てた。従つて空中よりは飛行機を以て阿姆斯特ダム (Amsterdam)・ロッテルダム (Rotterdam) 等の主要都市を爆撃すると共に、直ちに落下傘部隊(二機に約)及び後續輸送部隊(約一)を空輸して、ワールハーフェン (Warhafen) 以下各地の飛行場及び軍事施設橋梁その他を占領確保し、更に海軍陸戦隊がゾイデル海及び北海の各地に敵前上陸して十日正午には既にその首都ハーグ (The Hague) を占領した。この落下傘部隊及び空輸部隊はスパンェック (Spaneck) 中將の率ゐるところであつたが、その活躍は特に眼覚ましく、シエヴェニンゲン (Scheveningen) よりヘルデル (Helder) に至る北海海岸に於て各地に降下してイギリスよりの援兵揚陸を防止し、ハーグ・阿姆斯特ダム・ロッテルダム等に於ては第五部隊の華々しき活躍と呼應して敵の戦意を喪失せしめ、またワール・舊マース・新マース三河に架せる鐵橋を確保して(オランダ軍がこれを破壊するならば、獨)ロッテルダムを攻撃せしめた。殊に第五部隊の活躍はオランダ首脳部にも潛入して親獨派をつくり、また一般民間にも深く浸潤し、かくて落下傘部隊との共同

中心部急撃戦法

空輸部隊

精神戦術

作戦により民心を極度に恐怖せしめて、無抵抗の降伏をなさしむるに至つたが、これは所謂「精神戦術」としてもまた極めて効果的なものであつたといはれてゐる。

主力部隊の猛進

蘭軍戦闘中止

獨軍の戦果

またハンセン (Hansen) 大将の率ゐる百五十萬の主力部隊のうち、北方部隊はオランダ北部を席卷してゾイデル海に達し、更に快速船輕舟によつて十三日アムステルダム北方に揚陸し、中央主力部隊はアイゼル川を渡つて國防第一線を突破し、巧みに洪水地域の間を猛進してオランダ防備軍の背後に出で、十四日には遂に第二線を突破してユトレヒトを奪ひ、更にロッテルダムを占領した。オランダ女皇ウイルヘルミナも十三日にはロンドンに避難され、同政府も翌日またロンドンに移つた。かくて十四日には最後の國防線を死守してゐた蘭軍總司令官ウインケルマン (Winckelmann) 將軍も、ドイツの壓倒的武力に抗し難きを知り、これ以上の抵抗は徒らに破壊と損傷を大にするものなりとて、全蘭軍將士に即時戦闘行爲の中止を命じた。従つてアムステルダムの守備軍も撤退され、茲にオランダは完全にドイツの支配下に立つこととなつた。開戦以來僅かに四日、誠にドイツの電撃戦は眼覚ましいものであつた。この戦勝によるドイツ軍獲得の重要物資は、金塊二千六百萬磅、石油十萬噸、錫二千乃至三千噸、造船所三十五乃至四十、建造中の巡洋艦三、驅逐艦四、潜水艦七隻等といはれ、デンマルクの造船所には既にドイツの造船技師を急派してその建造に従事せしめてゐるといはれてゐるから、茲にもまた直ちに造船が開始さるるに至るであらう。

ベルギー進撃

ベルギー戦況

ベルギー方面に於ては智謀の猛將フォン・ライヘナウ (von Reichenau) が總司令官となり、約百箇師團(最初七十五箇師團にて後に二十)の大軍に進撃令を下した。北方軍はアーヘン (Aachen) 方面より三方に分れ、(一)蘭白國境に近く西進してレルモンド (Roermond) よりアンヴェルス (Anvers) に至り、蘭白兩軍を遮断分離せしめながら北方よりベルギー軍を包圍攻撃せんとするものと、(二)直ちにマーストリヒト (Maastricht) より西進して敵の首都ブリュッセル (Brussel) に向はんとするものと、(三)リエージュよりメーズ (Meuse) 川を溯つて南進し、マジノ線を突破してフランス軍を兩分せんとするもので、南方軍はトリエル (Trier) 附近よりルクセンブルグ公國を席卷して、マジノ線に向ふものであつた。

リエージュ要塞戦

五月十日未明、ドイツのベルギー進撃には、先づ飛行機が出動してブリュッセル・アンヴェルスその他の重要都市及び飛行場を爆撃したことはいふまでもないが、地上大部隊もまた直ちに行動を開始した。かくてその日のうちにレルモンド・マーストリヒトを奪取し、リエージュ郊外に迫つたが、翌十一日にはリエージュ要塞の外廓をなすエベネメール要塞を占領し、十二日にはアルベル運河を突破し、十三日にはリエージュを占領し、十四日には敵の首都ブリュッセルの前方ルーヴァン (Louvain) に肉迫した。このうちエベネメール及びリエージュの占領は驚異に値するものであつた。この地は第一次世界大戦に頑強に抵抗し、ドイツ軍を悩ましたところであり、今回もまたベルギーが最新式

國防線突破さ

築城を施して難攻不落と稱したところである。それが僅かに數時間の攻撃によつて陥落したのであるから、或は恐るべき爆發力を有する特殊爆彈、強力なる携帯用火筒放射機、電磁器等の作用により大砲その他の機能を破壊する祕密装置、身體のあらゆる筋肉を麻痺せしむる毒瓦斯等を使用せるにはあらざるかともいはれ、或はまた急降下爆撃による五百疋乃至千疋の大爆彈、落下傘部隊及び地上部隊による巧妙な共同作戦によるものともいはれてゐる。またアルペール運河線は小マジノ線といはれ、ここをベルギー國防の重要線としてゐたのであるから、その崩壊は白英佛側にとつても大きな脅威であつたのである。

佛將作戦の概

この形勢を見たフランス軍總監ガムラン (Gamelin) 將軍は、ドイツ軍主力をかねての豫想通り北ベルギーにありとし、リエージュ以南はミューズの溪谷とアルデンヌ (Ardenne) 森林地帯に阻止されて進出も緩慢であらうと考へ、有力なる部隊及び機械化部隊をベルギーに移動せしめた。然るにドイツ軍主力は寧ろリエージュ以南にあり、ここに六七千機を數ふる空軍と、二三千の重戦車、數千の火焰放射機及び萬餘の快速部隊 (自動車・キャタピラー車) を集結し、ルクセンブルグ進撃部隊と完全な聯絡の下に北はリエージュ南方よりナミュール・ディナン・セダンを経てロングウイ (Longwy) に至るミューズ河畔百三十軒の地に一大攻撃陣を布いた。かくて戦闘は五月十四日を期して行はれたが、その日のうちにナミュール・ディナン・セダン共に陥り、而も容易にドイツ軍はミューズ川を渡河

獨軍猛進撃

ミューズ川會戰の大勝

することが出来た。佛白軍が若しも退却に際して各所に於ける橋梁を爆破し得たならば、獨機械化部隊の進撃は大いに阻止せられたであらうといはれ、この失敗は今後の戦局に重大な影響を及ぼしたのである。かくてベルギーの重要國防幹線は突破され、ナミュールよりサンブル (Sambre) 河畔を獨軍が進む時は、ベルギーの野に白英佛軍は包圍さるる形勢となり、更にまたセダンの陥落はマジノ線の直接攻撃を有利ならしめてフランスの國防線を危険に曝すこととなる。従つてミューズ川會戰の敗北は白英佛軍にとつて最初の大失敗であるといつてよい。

セダン地區の激戦

マジノ線突破 セダンは五月十四日に陥落したが、セダン地區に於けるマジノ線前面の二日間、にわたる戦闘は實に物凄じかりであつた。この時ガムラン將軍は全軍將士に悲壯なる布告を發し、「いま戦ひつつある戦闘は祖國フランス・聯合國並びに世界の運命を左右しつつあるものである。我が部隊にして突進し來る敵に對して進撃し能はざれば、陣地を捨てて退却するよりも寧ろそこに死せよ。フランス史上の重大危機に當つて我等はただ勝利を得んとするのみ」と激勵し決死の覺悟を以てこれを喰ひ止めんとした。フランス軍は歩兵部隊を中心として空軍・戦車隊・砲兵部隊に掩護されながら進んだが、ドイツ軍は機械化兵器を主力とし數百機による空中からの急降下爆撃に助けられながら多數の戦車や七十噸超大战車に戦車砲二門、機銃六門の威力及び猛烈な火焰砲等を以て縦横無盡にこれを蹴散らした。即ちドイツ軍は機械化兵器を主力とする新戦法によつてフランス軍を

マジノ線突破
戦術

粉碎し、茲に大勝利を博するに至つたのである。

ついでドイツ軍はマジノ線に肉迫した。五千呎の高度より秒速五百呎の速力にて急降下し、地上數百呎のところより普通五箇の爆弾を投下して再び上昇、數秒の後には高射砲射程外に出でて照準の餘裕を與へぬ物凄さ、一噸乃至半噸の猛烈なる爆弾を投下し得る重爆機の威力、ドイツ空軍はそれらの飛行機を數百機連ねて連続的にただ一箇所のみを眼がけて攻撃したから、道がに堅固な要塞も崩壊せざるを得ない。そこを戦車と機械化歩兵が突破しゆくのである。かくして四月十七日には、セダンの東南カリニャン (Carignan) より遙かに西北方にあたるサンブレ河畔のモーブージュ (Maubeuge) の南方まで百餘軒にわたるマジノ線を突破することが出来たのである。これはフランス國家にとつて最も重大な危機である。最大の國防線と持んだマジノ線が僅かに二日の戦闘によつて突破されたのであるから、パリも祖國も今は風前の燈火に近い。かくて重要閣議が開かれて「前大戦の勇將にしてフランスの守護神」と呼ばれたペタン (Petain) 元帥を副首相にあげ、ガムラン元帥(國軍總監)、ジョルジュ大將(佛軍總司令官)を罷免して新たにウエイガン (Weigun) 將軍を國軍總監兼佛軍總司令官にあげ、この難局を打開せんとするに至つた。

聯合軍包圍作戰 マジノ線を突破したドイツ軍は更に南方に進撃して ランス (Reims、パリより北)、ソアンソン (Soissons、パリより北) を占領した。従つてそのまま進撃を續けて一舉にパリを攻略するか

フランスの危
機と首腦部の
更迭

白英・佛軍包
圍作戰

と見られたが、主力部隊は大舉して西進しマジノ線の背後を通過してイギリス海峡に出で、以てベルギーの野にある白英・佛軍を包圍殲滅すべき態勢をとつた。この時既に敵都ブリュッセルは開城し、要衝アングルスは陥つたが、百五十萬の白英・佛軍はフランダーズ(ベルギー國内の一州)の野にあり、必死となつてドイツ軍の猛襲を防いでゐたから、南方主力軍は大迂回作戰により完全にこれを袋の鼠たらしめんとしたのである。

かくてドイツ軍はマジノ線を破つて後も休息する暇もなく直ちに西進してその翌日にはソム川上流のサン・カンタン (St. Quentin) を占領した。この行動を見てフランス軍總司令官ウエイガンは、これを北方ヴァランシエンヌ (Valenciennes) 地區と南方レル (Rethel) 地區(フランスの北方)より挾撃せんとし、特に北方地區にはベルギーより有力なる機械化部隊を南下せしめて猛攻撃を加へた。従つてサン・カンタンの北方ヴァランシエンヌ方面に於ては五月二十日數千臺の戦車が入り亂れて文字通りに凄愴なる死闘が續けられたといはれてゐる。けれどもドイツの空軍は大編隊を以て入れ替り立替り敵戦車が將に交戦せんとする寸前に急降下爆撃を敢行してこれを粉碎し、または戦車の頭上すれすれのところを低空飛行して機銃掃射を浴せ、更に敵戦車の集合行進するところに大爆弾を投下してこれを混亂せしめた。その隙に乗じてドイツ戦車隊が猛進猪突して戦車砲・機銃・火焰放射機等によりこれを蹂躪したのである。このために聯合軍の挾撃作戰も遂にその効果を見るに至らな

戦車戦術

獨・佛軍の死
闘

獨軍の快速進

つたといはれてゐる。

かくてその後には於けるドイツ軍の猛進は實に敏速であつた。彼等はオートバイ隊を先導として戦車隊砲車隊これにつき、軍用車トラック等に乗せられたる歩兵その他が従つて殆ど休止するところもなく、更に後方には食糧彈藥及び馬匹までも搭載せる大トラック隊給油車装甲車後續部隊等が續き、時には時速六十五軒にも上つたといはるる。また空軍は絶えず空中より敵情を偵察し、前方左右等より襲撃さるる虞ある時は直ちに地上部隊と呼應してこれを撃退した。従つて二十一日にはソンム川の要衝アミアン (Amiens) と、佛白國境の要地アラス (Arras) を奪ひ、二十三日にはソンム川下流のアブヴィル (Abbeville) に達し、更にイギリス海峡に沿うて北進し、二十三日にはその昔ナポレオンが渡英基地と定めたブローニュ (Boulogne) を攻撃して、翌日これを占領、またアラスより進みたる軍は途中ベルギー・北佛地方より猛烈なる側面攻撃をうけ到るところに激戦を展開しながらその先遣部隊は二十五日カレー (Calais) を包圍し翌日これを占領した。茲に於てドイツ軍は百五十萬を擁すといはるる白・英・佛軍を北佛・フランスの狭小なる地區に包圍する陣形を完成するに至つた。リエージュ陥落後僅かに二週間を出でない短日月である。

包圍陣形完成
イギリス海峡に達す
ベルギー王戰
闘中止令を下す

聯合軍潰滅 かかる情勢の中に於て、五月二十八日、白國王レオポルド三世 (Leopold III) がドイツ軍に降伏した。國王は近臣の勸むる國外蒙塵をも退けられ常に最前線にあるベルギー軍中に

あつて指揮されてゐたが、ドイツ軍の壓倒的勢力と完全な包圍態勢を見、而も英佛既に恃むに足らず、ウエイガン將軍は援助と勝利の見込立たずとなし、英佛軍もまた盛にダンケルク (Dunkergue) より歸國せんとする形勢にあるを見て、これ以上無意義なる抗戦を續けて國民の損傷を大ならしむることを欲せず、在佛ベルギー政府の勸告をも退けて、ドイツに對し無條件降伏を通告すると共に、全軍に對して武装を解除し、戦闘を中止すべきことを命じた。戦線にあるベルギー軍の總數約五十萬といはれたから、英佛軍にとつては正に致命的打撃であるといつてよい。

包圍鐵環戰略

かくてドイツ軍の進撃は愈々猛烈を極め、この包圍圈を更に北中南部の三小圈に分割包圍すべく「鐵環戰略」をとり、イーブル (Ypres)・リール (Lille) に向つて猛攻を加へた。英佛軍は殲滅を免

リール陥落

ダンケルク狂

るべく脱出を企て文字通りの血闘を續けた。中にもリール南方地區に於ては、ガムラン將軍が養育せる優秀な機械化部隊があり、ドイツ軍と互角の戦闘を續けて反撃したけれども、獨軍がリールを占領するに及んで遂に降伏の止むなきに至り、二萬六千の兵が投降した。ついでドイツ軍はイーブルを占領してフランダースの英佛軍を更に二分する體勢をとつたが、この頃からダンケルクを中心として英本土に脱出を企つるものが極めて多かつたから、ドイツは飛行機と潜水艦の共同作戦によつてこれに當り、且つ陸上からも峻烈なる攻撃を加ふることとなつた。地上より加へらるる猛烈な砲火、空中より投下さるる凄烈な爆彈、陸上に仆るるもの海中に溺るるもの無數にて難破する輸送

ダンケルク陥落

船も數知れず、全く酸鼻の極であつたといはる。かくして僅かに「身を以て退却せる」もの(身を以て退却せよとは英司令官ゴット將軍の命令にて、獨軍の急進撃が如何に猛烈を極め、また如何に乘船が困難なりしかを知るに足る)英・佛軍併せて三十三萬五千といはれ、ダンケルクは六月四日遂に陥落した。茲に於てドイツ軍の敵包圍殲滅戦は完了し、歴史上にもその類例稀なる戦勝を博することが出来た。

ドイツの総合戦果

ドイツ大本營の發表する蘭・白・作・戦・の・綜・合・戦・果・を・見・れ・ば、捕虜一二〇萬以上、撃滅師團七五乃至八〇、撃墜飛行機數三五四一機(空中戦によるもの一四二機、高射砲に、撃沈艦船二七七隻、鹵獲及び敵の遺棄兵器(機銃大小砲、戰車、自動車トラック等)七五乃至八〇)箇師團分、これに對して獨軍の損害は戦死一〇二五二名、行方不明八四六三名、戦傷四二五二三名、計六一二三八名、飛行機四三二一といつてゐる。

經濟的收穫

軍事的價値

蘭・白・戦・勝・の・價・値　この戦勝の齎らした效果は極めて高く評價さるべきであらう。先づ經濟的に見て、オランダの農産物(牧畜・牛)造船業・海運業、ベルギーの陸海運輸業と鐵石炭・製鐵工業がドイツの勢力下に歸して、英・佛側の經濟的封鎖は益・破・綻・し、ドイツの經濟的基礎は愈・安・固・となるであらう。けれども更に大なるものは軍事的收穫である。即ちこの戦勝によつてドイツ軍は蘭・白・英・佛の聯合軍を分裂せしめ、その結合的勢力を完全に斷絶せしめた。のみならずその武力は英・佛軍に對して壓倒的に優勢なることを示し、武力戦に於ては完全なる勝利を確定したのである。かくてフランス軍は既に問題なく、今後は只・一・つ・對・英・作・戦・に・全・力・を・傾・く・る・の・み・と・な・つ・た。而もその場合、北は

飛行距離

ノルウェーより南は北佛まで支配下におき、ロッテルダム(オランダ)よりロンドンまで一九〇軒、オステンド(ベルギー)よりロンドンまで一五〇軒、カレール(北佛にあり、イギリス)より對岸のドーヴァー(イギリス)まで四〇軒である。従つて時速五〇〇軒(ドイツの最優秀機の性能)の飛行機を以てすればカレール・ドーヴァー間は僅かに五分間、普通飛行機(時速約三百軒)も約八分を要するのみである。かくしてナポレオン一世を嘆ぜしめたる渡英作戦も、愈・ヒットラーの手によつて決行されんとするに至つた。

獨軍パリーに向ふ

パリー入城　蘭・白・作・戦・完・了・後、フランス進撃か渡英作戦かを噂されたが、ヒットラーは前者を選んだ。既にダンケルクが陥落せる翌日(五月五日)より、歩兵四〇箇師團、機械化部隊五箇師團、戰車二二五〇臺、爆撃機一〇〇〇臺、装甲車一五〇〇〇臺を整へ、西はイギリス海峡より東はランス・ヴェルダンに至るソンム(Somme)・オワーズ(Oise)・ホーム(Aisne)流域の全線約二〇〇軒に互つて進撃命令を下した。これに對してフランスはベルギー戦争の間に所謂ウエイガン線を急造して防禦線を作つたが、元よりドイツ軍の猛攻には堪へることが出来なかつた。ウエイガン將軍は「各軍將士は退却を考ふることなく、その陣地を防禦すべし。斷乎たる決意を以て各自の陣地を死守せよ」との布告を發したが、新兵器の不足と士氣の沮喪とは如何ともすることが出来ない。ドイツ軍は新銳の歩兵部隊を先登に立てて猛進し、到るところにウエイガン線を突破して進んだ。七日にはシュマンデ

ウエイガン線突破

ダム(Chemin des Dames)方面(東部)を崩し、ソンム方面(西部)・オワーズ方面(北部)の戦線を突破し、

十日にはその先鋒がセーヌ (Seine) 川を渡つた。かくてパリは目捷のうちに迫り、これを東北・南の三方より包圍の攻撃態勢をとることとなつた。

パリ非武装都市

この時フランス政府は既にツール (Tours) に移轉してゐたが、パリ防衛司令官ピエール・エラン (Pierre Elin) は遂に大勢の如何ともすべからざるを知り、六月十三日パリの非武装都市たることを宣言し、市民の安全と食糧とを確保することを約した。非武装地帯たることはフランス軍の撤退と軍事施設の活動停止を意味し、従つて無條件のパリ開城と自由なるドイツ軍の侵入を許すこととなる。司令官は市内の秩序維持を駐佛アメリカ大使ブリット (Britt) に託して軍隊をパリから撤退せしめた。かくて六月十四日にはドイツ軍待望の歴史的パリ入城が行はれた。その日、曉の夢を破つて獨軍先鋒はパリ市北門より進入し、歩兵隊・自轉車隊・自動自轉車隊・砲兵隊・戦車隊・機械化部隊等何れも歩武堂々としてシャンゼリゼーの大通りを行進し、凱旋門に於てヒットラー萬歳を叫び、エッフェル塔その他にハーケンクロイツ旗を高く掲げた。一七七一年の入城以來再び巡り來つた光榮の日である。

獨軍パリ入城

フランスの打撃

パリ落城はフランスに最後の致命傷を與へた。ウェイガン將軍はパリをフランス戦線の一部分なりとし、決して重大な影響を與ふるものでないとして殘餘の戦線を立て直したけれども、全軍將士及び全國民に與へた精神的打撃は極めて大きく、佛全土の敗北は今や單なる時日の問題となつ

戦争繼續不能に陥る

てしまつた。のみならずパリ近郊は軍需工業・重工業の集中するところであり、特に飛行機・自動車・機械工業・化學工業の中心をなすところで、その機能が停止し、または獨軍の手に移る時は、今後に於ける軍需補給は殆ど絶望に近いのである。また鐵・石炭・重工業の中心地としてドイツのルール地方にも比すべき北佛リール地方が既に敵手に入つてゐる以上、フランスの戦争繼續は言ふべくして行はれないことである。従つてパリ陥落は完全なるフランスの敗北を豫定するものといふべく、國家的衰亡の兆もまた茲に象徴せられた觀がある。

イタリア参戦

イタリア参戦 パリ落城以前六月十日、イタリアは遂に参戦を宣言した。既にブレンネル會談によつて獨伊樞軸を再確認してゐたイタリアは、その後英・佛側に對して常に強硬的態度を持してゐたが、蘭・白戦線の進行に伴ひ輿論は益々硬化してイタリアの蹶起を要望し、フランスに對するコルシカ (Corsica)・ニース (Nice) の要求、イギリスに對するマルタ (Malta) の返還、バルカン及び地中海に於ける英・佛勢力の打倒とイタリア覇權の確立等を更に強調するに至つた。かくして政府も着々對佛準備を整へ、ローマは全く戦時氣分となつたが、遂に六月十日ムッソリーニはラヂオを通じてイタリア参戦を中外に聲明した。その理由とするところは英・佛の自由主義國が常に國際聯盟の桎梏をもつてイタリア國民の發展を阻害せること、地中海に於ける領土的・軍事的鐵鎖(註、イギリスのジブエズ・エジプト領有とフランスのチュニス・アルジェリヤ等の領有及び兩國艦隊の地中海制覇)によつてイタリア國民の大陸・大洋への自由な伸展を拘束せら

イタリヤ参戦の影響

ること等であり、今こそこの鐵鎖を絶ち切つて「地中海の囚人」から解放され、歐洲と世界の公正なる平和と正義を長期に亘つて樹立しなければならぬといふのである。

イタリヤ参戦の戦局に及ぼす影響は極めて大きい。その陸軍の應援によつて對佛戦は決定的となるであらうし、またイタリヤ海軍によつて英・佛地中海艦隊は牽制せらるるであらう。更に英・佛側が對獨經濟封鎖の最後と頼む地中海及びバルカンルートは極めて價値少きものとなつて益、ドイツ側を有利に導くであらう。なほ將來の場合を考ふる時、フランスは南方地中海方面及びイタリヤと親密なるイスパニヤ方面より脅威をうけ、且つフランス本土とアフリカ植民地との通路を遮断され、イギリスはマルタ・ジブラルタル・スエズ及びエジプトを攻略せられて地中海の覇權を失ひ、印度ルートを脅威をうけ、またバルカン諸邦に於ては英・佛の勢力が後退して獨・伊の支配が強化されるであらう。かくして獨伊樞軸の強化は將來に於て全體主義的歐洲國家群を形成せしめ、そこに國際政局の一大變貌と世界經濟文化の大轉換を起し、従つてドイツ軍の大勝と相俟つて茲に世界歴史の大轉機を確實化するものと見る事が出来るのである。

フランスの休戦提議

パリ陥落の日より、再びドイツ軍の全線に亘る總攻撃が熾烈となり、東部に於てはマジノ線の突破によりヴェルダン (Verdun) 第一次大戦に最後まで佛軍が死守せし所 を陥れ、アルサス・ローレン

ン地區を奪ひ、遂に佛軍をして全線に亘る總退却を餘儀なくせしむるに至つた。この機に乗じてイ

世界史的影響

佛政府の和戦論盛となる

タリヤ軍もまた空陸とも南フランスの各地に侵入したことはいふまでもない。

フランス政府はツールよりボルドー (Bordeaux) に移轉したが、パリ陥落とイタリヤ参戦及びこの敗戦を見てはドイツに對して到底勝算なきことを覺悟した。従つて最早對獨講和(降服を意味する)を

なす以外に祖國を救ふの道なしとの議論が擡頭するに至つた。かくて六月十四日より佛政府内には和戦兩論が對立し、更に十六日に至るまで三日間にわたり幾度か歴史的重要會議が開かれたけれども、容易にその決定を見るに至らなかつた。かくて最後にアメリカの援助とイギリスの態度とを確かむる必要があつた。アメリカ大統領に對しては既に佛首相より「事態の急迫に鑑み、アメリカ朝野が凡ゆる方法に於て援助を強化されんこと」を「最後の訴」として懇請してゐた。それに對するルーズヴェルト大統領の返電が十五日に届いた。それによれば「英佛政府が抗戦を繼續する限りアメリカは飛行機彈藥等の軍需品輸送を倍加することに努力するであらう。しかしながら軍事的誓約を含む援助の公約は、ただ議會のみがよくし能ふところであり、余としてはこれを爲し能はざること

を諒とせられたい」といふ否定的なものであつた。これによつてフランスの望んだ緊急事態への軍事的援助は容易に實行さるべくもないことが明らかとなつた。またイギリス政府は如何なる場合に於ても戦争繼續を主張し、そのためにフランスとの協力を要望してゐた。今回の對獨講和說に對しても極力引留に全力を盡してゐたが、しかしそれは兩國のためにするのではなくイギリスそのもの

イギリスの戦争繼續

アメリカへの懇請否定さる

英佛聯合國案

のためであり、そのためにはフランスを犠牲にすることを顧みざる有様であつた。従つて最後の十六日に於ける對佛提議に對しても、フランスの危急を救ふために軍事的援助を強化せんとするにあらざりして、「英佛聯合國」案を提示した。これは「難局に直面するフランスを飽くまで救援し、フランスを最後まで抗戦せしむるため兩國家不分離の嚴肅なる聯合即ち二國としてではなく一箇の英佛聯合國たらんとする」ものであるが、その内容は「國防・外交・財政並びに經濟政策につき共同機關を設け、戰爭繼續中は唯一つの内閣が國務にあたり、兩國兵を指揮する」もので、表面上はフランスのためにする聯合國でありながら、事實に於ては完全にイギリスの支配下に立つこととなるものである。何となれば既にその領土の大半と多數の兵力とを喪失せるフランスは、結局イギリスの經濟と政治と指揮命令を受けざるべからざるに立ち至つてゐるからである。

かくの如き形勢に於て國務會議は遂に單獨講和と決定した。かくて抗戰親英派のレイノー (Reinoud) 首相は、十六日午後十一時遂に總辭職を執行し、大統領ルブラン (Leblanc) は時局收拾の大任をベタン元帥に託し、ウェイガン將軍を副首相として新内閣が出現した。かくてベタン新首相は國民に對し「余は獨軍司令官に對し戰鬪行爲の中止を通告した。かかる通告をなす余の心は暗然たらざるを得ない。この苛酷なる運命の重大時期に對して、全國民は余の政府を中心として一致團結の行動をとれ。我等は苦痛を甘受して祖國の運命に對する信念にのみ従はなければならぬ」と布

フランスの單獨講和決定

告し、同時にドイツ政府に對しても休戦を提議した。

獨佛休戦成立

休戦提議をうけたドイツ政府は、翌十八日ミュンヘンにムツツリーニ首相・チアノ外相・パドリオ總參謀長を迎へ、ヒットラー總統・リップントロップ外相等と共に休戦條件に對する歴史的會見を行つた。會談の結果兩巨頭の間には完全な意見の一致を見るに至つたので、これをフランスに提示することとした。フランス政府はこれをうけて直ちに會議に入つたが、その成立までは戰鬪行爲を中止せしめなかつたので、獨伊軍は一瀉千里の勢を以て進撃し、フランスの殆ど三分の二にあたる部分を占領した。時既に佛軍に戰意なく、殆ど無抵抗の状態にて、獨伊軍は無人の野を行くことが出来たのである。

休戦申込と獨伊軍の進撃

コムピエーヌの會見

かくて六月二十一日(一九一八年)ヒットラー總統は自らコムピエーヌ (Compiègne) の森に赴いてフランス代表と會見した。この地はバリーの北八〇軒のところであり、その森の中に保存せられたる展望車は、一九一八年十一月十一日敗殘のドイツが勝ち誇る英佛軍首脳部と休戦條約を締結したところである。ヒットラーは副總理陸海空軍總司令外相等の幕僚を従へて到着し、カイテル (Kaitel) 將軍をして前文を朗讀せしめ、且つフランス代表アンチジエ (Antiges) に休戦協定案を手交せしめた。フランス代表は電話を以てフランス政府と交渉の結果、遂に翌二十二日午後六時五十分に至り、茲に歴史的なる獨佛休戦協定調印が終つた。その内容の重なる條項は、(一)フランス政府は本國・植民地

休戦協定の調印

獨佛休戰協定の内容

等あらゆる領土に於けるすべての對獨戰闘行為の停止を命じ、その武器を抛棄せしむ。(二)ドイツ軍はその利益を確保するためフランスの北半及び西部海岸地帯(ジュネーヴよりドール・シャロン・シュール・ソワソンを経てツールに至り、そこより南下してサンジャン・ピエドポールに至る線)を占領す。(三)この占領地域内に於ては地方行政を除く一切の権利を保持す。但しフランス政府がバリーに移轉するも差支なし。(四)フランスの陸海空軍は秩序維持に必要な軍隊を除き動員及び武装を解除すべし。(五)フランス軍の大砲・戦車・飛行機その他の武器・軍需品の一切をドイツ軍に引渡すべく、軍需資材は獨伊兩國の管理下におくべし。(六)フランス艦隊はフランス水域に召還し、武装を解除し、獨伊の管理下におくべし。ドイツは對英戰爭中これを自國の目的のために使用する意圖なし。(七)フランス飛行機は一切離陸すべからず、飛行場と共に獨伊の管理下におくべし。(八)占領地域内の一切の建造物・軍用器材・貯蔵物は現状のままこれを引渡すべく、海港・道路・通信機關・要塞・造船所等は現状のまま保存してこれを破壊損傷せざることを得ることなどを規定した。ついで獨伊の間にも(一)場合、ドイツは何時にてもこれを破棄することを得ることを規定した。(二)チブチ港及びチブチアヂスアベバ鐵道の権利を取得し、(三)イタリヤと佛本國・チニス・アルジェリヤ及び佛領ソマリランド等との間に非武装地帯を設定すること等を特殊條項とし、あとは獨佛協定と略、同一なる條項の下に休戰協定を成立せしめた。

伊佛休戰協定の内容

蘇々たるドイツの勝利

かくて伊佛休戰協定の成立後六時間、即ち六月二十六日未明より對佛戰闘は休止せらるることとなつて、對佛戰は蘭・白戰の始より起算して僅かに七週間を出でずして完全にドイツの勝利となつた。茲に於てドイツは僅かに三箇月を出でずしてノルウェー・デンマーク・オランダ・ベルギー・フランスの五國を征服した。誠に史上稀なる大偉業といふべきである。

獨佛勝敗の因 かくの如くドイツの壓倒的勝利とフランスの見るも悲惨なる敗北の跡を見る時、我等はそこに重大なる幾多の原因が伏在することを見通すことが出来ない。吾人はこれを戰爭目的

戰爭準備・兵器作戦・戰爭統帥の四項に分つて比較して見よう。

戰爭目的について

戰爭目的に於てドイツが極めて徹底・熾烈であつたのに比して、フランスは低調・無關心であつた。戰爭目的が國民と將兵に徹底するか否かは、戰闘に於ける壯烈な意氣、勇猛果敢なる行動、決死報國等の原動力を左右し、銃後に於ける滅私奉公の眞精神に甚大なる影響を與へるものである。ドイツは前大戰に於て嘗めたる敗戦の苦杯と戦後の疲弊に對する悲惨な生活を餘儀なくせしめられ、またヴェルサイユ條約とその外交體制によつて國運の進歩と國家的發展とを完全に阻止せられたのであるから、英・佛への憤懣は激増し、ヒトラーの指導する民族精神の高調と國家的興隆の意氣に燃えて、英・佛を打倒し、ヴェルサイユ體制を破壊することのみが前大戰の雪辱とドイツ民族國家の發展を約束するものであると考へたのである。これがドイツ國民の日常生活に於てあらゆる苦痛を忍

ドイツ民族の意氣

フランスの精神の沈滞

ペタン元帥の言

戦争準備について
ドイツの戦時體制

び、あらゆる統制命令を甘受して私慾功利の觀念を捨て、一意國家のために盡さんとした根源であり、また戰場に於て決死的進撃を完遂せしめた所以となつたのである。然るにフランスは戦勝に酔ひ、文化に溺れ、ヴェルサイユ體制(國際聯盟)を恃みとして徒らに外交的技巧を弄して國力そのものの培養を怠つた。ドイツは鐵(國力と)を蓄へたのにフランスは紙(外交と)を集めた。一朝事あるとき條約が一片の反故に等しいことは歴史の示すところである。前大戰後フランスの國民精神が著しく弛緩したことについて、パリ陥落後ペタン首相は今回の敗因を列擧したが、その最後に「一九一八年の戦勝以來、フランス國民の間には犠牲の精神が消え失せて享樂的氣分が漲り、眞劍な努力が見られなかつた。これこそフランスが今日の如き悲惨な敗北をなした最大の原因である」と國民に警告を發したことは、その眞相を最もよく指摘したものといつてよい。

戦争準備についてドイツは早くより周到精緻なる計畫をたて、且つこれを實行するために政治經濟文化の各方面に互る國家の全機構を戰時體制化した。産業の興隆、科學の發達、統制經濟の強化、ナチス教育の徹底を期して、すべてを戦争目的のために改組し、以て新體制を樹立したことについては、既に述べたところであるが、それによつて得たる國力を盡く軍需資材の獲得と軍需工業の發達及び新軍需兵器の製造、國防計畫の充實にあてた。従つて短日月の間ながら優秀なる兵器と強力なる國防力を保持することが出来たのである。これに反してフランスはマジノ線を築城して以來そ

フランスの轉落

兵器・戰術について

優秀な機械化兵器

の難攻不落を恃みとして偷安懈怠の念を生じ、國防に關して慢心を起した。のみならず自由主義、個人主義の思想は個人の生活と快樂をのみ考へて國家への犠牲を忘れ、特に人民戰線(蘇聯のコミンテ國際共産主義運動)が結成せられてよりは、勞働時間の短縮、賃金の値上等をのみ要求して國家の勞働力を減退せしめ、而もその主義として武器製造、國防力充實等に反對した。従つて最近十年間に於けるフランスの戦争準備は低下の一方を辿り、二等國に轉落したとまでいはるに至つたのである。

兵器・戰術に於てドイツが優秀であることは言ふまでもない。兵器についてはその優秀な科學の發達と工業力・技術の進歩により、その數量と精銳さに於て正に世界一であり、到底英・佛の比肩するところではない。特に飛行機・戰車・機械化部隊に於て最も優秀な性能を有することは既に述べたところであるが、その數量に於ても例へばドイツは戰車十二箇師團を所有するに對して、フランスは僅かに四箇師團を有するのみ、マジノ線突破には百軒の間に二千五百乃至三千臺の戰車をもつて突き進んだといはれ、更にベルギー包圍のため北佛進撃に際しては、急降下爆撃機一千臺、戰車二千二百五十臺、裝甲車一萬五千臺に上つたといはれてゐる。飛行機も蘭白戰當時は一萬三千臺に上つたといはれ、毎月二千臺の製造能力をもつと稱されたのである。ペタン首相がフランスの航空兵力はドイツの六分の一に過ぎずとてこれを敗因の一に數へたことは、また故なきことでないといつてよい。

新戦術

新立體戦術

戦車戦術

戦術もまた既に述べたるが如く極めて嶄新なものであつた。ドイツには由来多くの戦術家を出し、前大戦に於てもシュリーフェン(Schlieffen) 前大戦に於けるドイツの両面作戦——先づフランスを征服してロシアに向ふもの、及びベルギーを突破しての迂回包圍作戦などは、彼の遺した作戦である。ヒンデンブルグ(Hindenburg) 前大戦に於けるタンネンベルグの大敗、ヒンデンブルグ線の構築等は彼の作戦による。を出したが、ヒットラーもまた新兵器に適應して新戦術を創始した。先づ飛行機の發達によつて遠距離攻撃、急降下爆撃、落下傘戦術、空輸戦術を行ひ、戦車、機械化部隊によつて部分突破と快速機動戦を展開し、更に兩者の結合によつて巧妙なる近代的立體作戦を敢行した。飛行機による遠距離攻撃と落下傘部隊、空輸戦術等はノルウェー・オランダに於けるが如く、直ちに敵國の重要都市または心臓部を占領して一擧に一國を占領し、または腹背より攻撃するの新戦術を産んだ。また急降下爆撃は從來の大砲に代つて新たな威力を加へ、海上に於ける軍艦大砲魚雷等と呼應して新立體戦術を展開したのである。急降下爆撃の的確なる成功は、海軍と空軍との優劣を決定する程の威力をもつものであつて、陸上に於ては後方にある大砲にも優つて的確に命中せしめ、且つ五百斤千疋の爆弾は、戦車砲壘、要塞に對して遙かに強大なる破壊力をもち、茲にも地上軍と呼應して戦機に應じ、最大偉力を發揮して立體戦を展開することが出来たのである。ついで戦車の破壊力も極めて猛烈であり、殊に數千の戦車、飛行機が共同作戦に出で、敵陣に突入して急降下爆撃、地上掃射及び機銃、小砲、火焰砲を發射することは、現代科學の粹を集めた機械化戦の華であるが、この科學戰、立體戰に對應する戦車戦術もまたドイツ

快速機動作戦

の最も優れた新戦術である。かくて一部分を遮二無二突破することにより全般的勝利を得るマジノ線の如き戦果を得ることが出来たのである。のみならず機械化部隊の快速は機動作戦を最も容易ならしめ、敗敵を急追して徹底的に壊滅せしめ、または猛進撃を續けて包圍殲滅策を完成せしむる等、ベルギー戰、パリ包圍戰及びその後の全線に互る追撃戰等の戦果を得たのである。これらに對してフランスのもつ歩兵中心の舊式戦法と寡少武器とが、如何に無力なりしかは改めて茲に述ぶるまでもないことであらう。

戦争統帥について
政治・軍事の一元化統帥

最後に戦争統帥についてドイツは極めてよく行はれてゐる。即ちナチス政權の成立以來、ドイツの軍部と政府とは完全に一元化され、ヒットラー總統の下にすべての政治と統帥の機關が圓滿敏速に活動してゐる。殊に國防軍備を目標としての國內新體制樹立や、統制經濟の制度、國防的見地よりする對蘇對バルカン外交等誠に鮮やかなるものといふべく、また戦争統帥の根元たる最高作戦については總統を中心としてゲーリング元帥・ブラウヒッチ陸軍總司令・カイテル國防軍監・レーダー海軍總司令等によつて決定され、而も徹底した最高統帥部への信賴により命令は絶対に服従されて少しの違背をも生じないのである。そのために國內に於ける總活動力と總機構とはすべて國防のために集結され、最高首腦部の企畫は完全に服従遂行することとなるのである。然るに英・佛の如き自由主義、議會主義の國に於ては政治上に於て既に軍部と政府との對立があり、軍部の主張する完全な國

自由主義國の不徹底

防計畫が政府に否定せられて、戦争の場合兵器軍需品の劣悪不足を來すことあり、戦争に於ては最高作戦・國策等に意見の對立を見、または議會の反對にあつて内閣の改造・更迭があり、従つて戦争統帥の權威と徹底とを缺く場合が少くないのである。既に述べたるが如く、今回の戦争に於ても、英佛側にかかる例は頻々として起つてゐるのである。茲にまたドイツ軍の優勢なる原因を發見するこゝとが出来る。

フランスへの影響

フランス敗戦の影響 フランス敗戦のフランスそのものに與ふる影響は徹底的である。休戦協定に於てドイツは比較的寛大な處置をとつてゐるけれども、これは暫定的なものであつて、講和本條約にドイツが如何なる態度をとるか未だ不明である。その如何に拘はらずフランスは現在ドイツのため完全に蹂躪せられた制壓せられて、兵力はなく産業は荒廢し全く二三等國に墮したかの感がある。今後フランスが立ち上るか否かは將來の問題として茲に豫斷することは差控へねばならぬ。しかしフランスの敗戦が現在の戦局とその將來に及ぼす影響は極めて大きいと見なければならぬ。

對獨經濟封鎖の破綻

先づこれによつてイギリスの對獨經濟封鎖は完全に破綻したと見る事が出来る。即ち海上に於てフランスが擔當した北佛より北アフリカに至る線(カサブルランカ・ダカール(北佛)より)北アフリカより西印度に至る線(カサブルランカ・ダカール(北阿)に至る)北アフリカより北米に至る線(ニューヨーク(北米)に至る)の海上封鎖が消滅したわけであり、陸上に於てドイツはフランスの物資またはフランスを経由する物

ヴェルサイユ體制の破壊

資を得ることとなつたのである。従つてイギリスの計畫する長期戰經濟封鎖は茲に破綻したものと云ふべく、逆にイタリヤ軍隊または獨潜水艦の活躍によりイギリスが封鎖さるる懸念なしともいへないのである。次にまた英本土攻撃戦には愈、有利な立場となり、茲に世紀の渡海作戦が實行されることは豫測するに難くない。

しかし戦局以外に最も重要なことは、蘇聯を除く歐大陸に於てドイツが完全な制覇をなし遂げたと云ふことである。勿論これは軍事上に於てのことであり、空陸軍に關することのみである。けれどもドイツの軍事的制覇は單に軍事的方面にのみ止まるものでは決してない。ドイツの意圖するところは歐洲に於てヴェルサイユ體制にかはる新國際體制の出現であり、ドイツを中心とする新經濟體制の確立である。ドイツ軍事の背後には必ず政治があり經濟がある。即ちドイツはイタリヤと提携して壓倒的なる軍事的勢力を背景とし、そこに新國際關係を規制して獨伊樞軸の新體制をつくり、獨伊を中心とする自主自足的經濟圏を作るであらう。かくして歐洲には英・佛に代つて獨伊主宰の新世界が展開され、茲から世界の歴史が發足することとなつたのである。

列國への波紋

ドイツの大勝とフランスの降伏が列國に大きな波紋を及ぼさぬ筈はない。それが英・蘇・米及び東洋に及ぼした影響は極めて大なるものがあつたのである。

先づイギリスに於ては最初英佛對獨なりしものが今は英對獨伊となつて逆比率の形勢となつたけ

イギリスへの影響

國防強化

佛海軍を奪取

蘇聯の活躍

バルカン方面

れども、首相チャーチルは少しも恐れず、「フランスが如何にならうとも我等は今や世界の自由を擁護すべく武器をとれる唯一の戦士となつた。けれども我等は英本土と英帝國を防衛して最後まで敢然と戦ひ続けるであらう。イギリスは断々乎として戦争を繼續する」と豪語し、百七十五萬の大軍（陸軍百二十五萬、地防衛義勇軍五十萬）と世界無敵を誇る海軍とを擁し、英本土をあげて要塞化することに努め、益、防備を嚴重にした。イギリスは更に佛艦隊を自己の勢力下に置かんとした。即ちその當時フランスの海軍勢力は主力艦八、巡洋艦一八、乙級巡洋艦三二、航空母艦二、潜水艦七七、驅逐艦三八、護衛艦三八その他であり、これが英獨何れに屬するかは海軍力に於て重要な問題となるものであつた。従つて英政府は自國港灣内にあるもの（ポーツマス、プリマス）二百餘隻（主力艦二、輕巡二、潜水、驅逐艦及び小艦艇多數）を接收し、更に北アフリカのオラン（Oran）、ダカール等に碇泊するものに降伏を勧告して拒絶されたためこれを撃沈または行動不能ならしめた。このためフランスはイギリスに對して國交斷絶を通告し（七月五日）、昨日の友は今日の敵となつてしまつた。かくてイギリスはイギリス海峡と海軍とを唯一の恃みとして對獨軍備を強化し、「最後には必ず勝つ」といふ信念のもとに時機の來るを待つてゐるのである。

次に蘇聯はこの機を逸せず、バルカンと北歐とに活躍を始めた。即ち六月二十八日（一九四〇）蘇聯政府はルーマニアに對してベッサラビヤ（Bessarabia）、ブコヴィナ（Bukovina）（ともに一九一八年ルーマニアの返還要求をなして侵入し、これに對抗してホンガリヤもまたルーマニアに對してトランシルヴァニア（Transilvania）の失地要求をなさんとする形勢を示し、バルカンは再び動亂の勃發を見んとした。けれどもホンガリヤは獨伊の勸告によつて思ひ止まり、蘇聯のみその進駐を完了して兩州を軍事的に占領した（七月二日）。ついで北歐のバルト三國（リトワニヤ、ラトヴィヤ、エストニア）に對しても軍隊を派してこれを蘇聯化し、以て完全に自國領とした。更に中央アジア方面に於てはイラン（Iran）國に對し舊帝政時代ロシア領たりし裏海南岸一帯の割讓を要求し、新國境劃定を提議した。かくて蘇聯の動きは極めて注目すべきものであるが、特にバルカンに於ては獨伊英三國に關係するところ多く、獨伊の工作も活潑に、やがてルーマニアが英佛との保障條約を廢棄して親獨政策（親獨内閣の成立、石油の對とり、ホンガリヤも既に親伊政策をとれる上、新たに獨洪通商協定を成立せしめ、かくて兩國の獨伊樞軸接近は強化され、バルカンは一應の鎮靜を見るに至つた。

北歐方面

アメリカへの影響
軍備擴張

アメリカ合衆國はドイツの優勢に刺戟せられて、盛に軍備擴張と汎米結束に努力することとなつた。既に米大統領は北歐戦局の始頃、アメリカ兩大陸二十一箇國はその平和的組織が挑戦をうけた場合、斷乎として「武力には武力を以て」對抗すべく、武力による平和確保の演説を行つたが、民衆及び議會の間に於ても軍備擴張が盛に論議され、上院は五月二十三日總額十四億七千三百七十五萬六千弗（邦貨概算六十億六千萬圓）に達する未曾有の龐大海軍豫算案を滿場一致にて可決（六月六日、更に千九百萬弗を増額して兩院通過）下院は總額十八億二千三百萬弗（邦貨概算七十八億三千九百萬圓）の陸軍費を可決、更に空軍としては陸空軍の常備數

世界最大海軍
建設案

六千臺の制限を止めて、一萬臺以上とし、毎年飛行士八千五百名を訓練し、海空軍は常備數一萬臺、現行飛行士一萬六千名を常備することとした。而も歐洲に於ける英佛軍の敗退を見ては愈々軍擴熱を煽り、六月十八日には世界最大海軍建設を目標として總額四十億弗(邦貨概算百七十二億圓)を以て現有勢力の七割増強を斷行し、百二十五萬噸(内譯主力艦三十八萬五千噸、四萬五千噸級主力艦八隻分、航空母艦十二萬五、千噸、巡洋艦四十二萬噸、驅逐艦二十五萬噸、潛水艦七萬噸、補助艦十萬噸)を提出して七月十一日兩院を通過し、更に七月十日には第三次追加豫算として四十八億四千八百萬弗(邦貨概算二百八億五千萬圓)を提出し、主として陸軍に於て戰時二百萬の動員と、それに要する戰車兵器等を整備し、飛行機は現有勢力に加へて更に一萬五千臺を増設し、また海軍工廠・海軍根據地・航空基地等の増設強化を計畫した。かくしてこれらが完成の曉に於てアメリカは世界の一大軍擴國となるであらう。フランスの没落後二回の追加豫算に於て八十八億五千萬弗(邦貨概算三百八十億五千萬圓)といふ未曾有の軍事費を計上したことは如何に衝動の大であつたかを知ることが出来るのである。

西半球に於ける
モンロー主義
の強化

次にアメリカの努力せんとするところは西半球に於けるモンロー主義の強化であり、南北兩アメリカ大陸二十一箇國の經濟的支配權を確立することである。歐洲に於ける獨伊プロックの成立と廣域經濟圏の確立に對抗して、當然西半球に於てもアメリカを盟主とする國家群の強化とアメリカが支配者となる廣域經濟圏を確立してこれと對抗しなければならぬ。従つて既にモンロー主義を強調して歐洲諸國の西半球侵入を防止し、また南北アメリカの現状維持を主張して戰亂の波及すること

第二回汎米大
會

アメリカを盟
主とする共同
防衛

を防止したが、更に毎年五億弗の損失を覺悟して歐洲向輸出難に悩みつゝある中南米諸國の物資をアメリカに買ひ上げ、以て戰時中及び戰後に於ける經濟的支配權を確立せんとしてゐるのである。かくて七月二十二日よりキューバのハヴァナ (Havana) に開かれたる第二回汎米大會 (Second Pan-American Conference) に於て、アメリカは大いに畫策するところがあつた。即ち席上アメリカ代表ハル國務長官は西半球の結束と協調を力説し、(一)西半球に於ける西半球以外の諸國(英・佛)に屬する領土を他の西半球以外の國(獨・伊等)に讓渡することは絶對反對である。(二)その領土は從來の所有に屬することを希望し、または西半球諸國が共同管理して後、これを獨立せしむるもよし。(三)西半球諸國は獨伊等全體主義國の侵略に對し、軍事的防禦の方法を講ずること。(四)獨伊の經濟的進出に對抗し、これを排斥すべく、對歐物貨はアメリカが買ひ取り、これを歐洲に再輸出すること等を主張した。これは明らかに獨伊その他の領土的軍事的經濟的進出を防止し、そのため西半球諸國は共同して軍事的經濟的防衛を講ぜんとしたものであり、かくしてアメリカは當然の結果としてその盟主たることを期待したものである。けれどもアルゼンチンはブラジルの後援を得てこれに反對し、自國の自由を他國に掣肘せらるることを欲せず、またアメリカの屬領たる意志を有せずとて遂に會議は停頓の形となつたが、漸く妥協してアメリカ諸國の提携、西半球内歐洲諸國領土のアメリカ諸國以外への移管反對等が決定され、經濟事項に關しては顯著なる成果を見るに至らなかつ

た。しかしながら現實に於ては、アメリカ合衆國の將來に於てもつべき武力と現在の經濟力がやがてアメリカ合衆國を盟主とする兩アメリカ國家群と經濟圏の成立を可能ならしむることとなるであらう。

東洋への影響

最後に東洋に及ぼす影響もまた重大である。東洋にはオランダの領土として蘭領東印度があり、フランスの屬領として佛領印度支那がある。蘭領東印度は我が重要工業品の輸出地であり、石油、ゴム、錫等の重要軍需品輸入地であり、佛領印度支那は援蔣ルートの一として我が支那事變處理に關係深きところであり、共にまた我が大東亞共榮圏の一環として日本の生命線をなすところである。従つて我が帝國は四月十五日(一九四〇)蘭印が軍事的・政治的・經濟的分野に變更をうくることを希望せず、我が國との經濟的關係が平和に維持増進されんことを希望し、米・濠・蘭・佛等も現状維持を聲明した。また佛領印度支那に關してはフランス降伏後同地が東亞安定の建前より經濟的・軍事的に重大關心を有するが故に、極めて友好的態度ならんことを要請し、且つ援蔣ルートの禁絶を要求した。かくて蘭印及び佛印を繞つて今後帝國との關係は一層緊密の度を加ふるに至つたのである。

三國條約の成立

イギリス空襲と英・米の接近 六月二十二日(一九四〇)獨佛休戰協定が成立してから、暫く鳴を鎮めてゐたドイツは愈、イギリスに向つて最後の大打撃を與ふべく八月頃より英本土各地に猛烈なる空

英本土大空襲

襲を敢行し、遂に首都ロンドンを始めイギリス各地に猛爆を加ふるに至つた。連日に互り優秀なる飛行機の大編隊をもつてロンドン郊外の飛行場軍事施設、港灣工業地帯等を破壊し、更に繁華街官衙にも及びバッキンガム宮殿も數回爆撃せられた。それらの被害は相當甚大であり、また精神的に英國民を恐怖せしめた効果は大であつたけれども、未だ決定的にイギリスを降伏せしむることもなく、また英本土上陸作戰の端緒ともならなかつた。

英・米の接近

かかる間に地中海方面に於てもイタリヤの活動があり、バルカンに於ても外交上の動きを見せたが、最も顯著なものは英・米の二大國が次第に接近の度を加へたことである。即ちイギリスはその前途に最も不安を感じるためアメリカの援助を受けんと熱望し、アメリカより驅逐艦五十隻の讓渡を約するに至つたが、更にイギリスよりはアメリカの東海岸にある英領島嶼(例へばバークレー諸島、バハマ諸島、リワード群島など)にある海空軍基地を、九十九箇年アメリカに租借せしむることとした。これはアメリカにとつてその東岸を防備するため最も須要の地を得て獨・伊に對し海・空に於ける鐵壁の守備を固め得るところのものであり、イギリスにとつては愈、兩國の緊密化を鞏固にして場合によりては絶大なるアメリカの援助を仰がんとするものである。のみならず更にアメリカとカナダとは益、親善協調の實をあげ、濠洲・ニュージールランドを連ねて太平洋防備を完整し、必要に應じてはシンガポール軍港をもアメリカ艦隊の使用に供するとさへ謂はるるに至つた。

英領海空軍基地の租借

太平洋防備

帝國の新秩序
建設方針

日獨伊三國條約の成立 かかる形勢下に九月二十七日(一九〇〇)ベルリンに於て日獨伊三國條約の締結調印が行はれた。帝國に於ては既に八月一日近衛首相が組閣後、「世界が歴史的一大轉機に際し、數個の國家群の生成發展を基調とする新たな政治經濟文化の創成を見んとするにあたり、この世界史的發展の必然的動向を把握し、八紘を一字とする肇國の大精神に基づき世界平和の確立を根本とし、皇國を核心とする日滿支の結合を根幹とする大東亞の新秩序を建設せんとする」ことを宣布したが、この大方針は計らずも獨伊の向ふところと軌を同じくすることとなり、遂に緊密なる三國の提携が成るに至つたのである。

三國條約の趣旨
條約の内容

その趣旨は條約前文にもある如く、三國政府は「萬邦をして各、その所を得しむるを以て恒久平和の先決條件なりと認めたるにより、大東亞及び歐洲の地域に於て各、其の地域に於ける當該民族の共存共榮の實を擧ぐるに足るべき新秩序を建設し且つこれを維持せんことを根本義と爲し、更に世界到る所に於て同様の努力をなさんとする諸國に對し協力を吝まず、斯くして世界平和に對する三國終局の抱負を實現せんと欲する」のであつて、そのため三國政府は、

第一條 日本國はドイツ國及びイタリア國の歐洲に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且つこれを尊重す

第二條 ドイツ國及びイタリア國は日本國の大東亞に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め

且つこれを尊重す

第三條 日本國・ドイツ國及びイタリア國は前記の方針に基づく努力に付相互に協力すべきことを約す 更に三締約國中何れかの一國が現に歐洲戰爭又は日支紛争に參入し居らざる一國に依つて攻撃せられたる時は三國は有らゆる政治的・經濟的及び軍事的方法に依り相互に援助すべきことを約す

第四條 本條約實施の爲各日本國政府・ドイツ國政府及びイタリア國政府に依り任命せらるべき委員より成る混合専門委員會は遲滞なく開催せらるべきものとす

第五條 日本國・ドイツ國及びイタリア國は前記諸條項が三締約國の各とソヴィエト聯邦との間に現存する政治的狀態に何等の影響をも及ぼさざるものなることを確認す

第六條 本條約は署名と同時に實施せらるべく、實施の日より十年間有效とす 右期間滿了前適當なる時期に於て締約國中の一國の要求に基づき締約國は本條約の更新に關し協議すべし

世界的意義

三國條約の世界的意義 この三國條約は世界的に極めて重要な意義を有するものである。即ち最初にヴェルサイユ體制を打破せんとして起つた三國が茲に固く協力するに至つたことは、日獨伊に對抗する英米をして益、緊密に提携を強化せしむるに至るであらう。従つて獨伊の對英作戰には

アメリカをより以上考慮に入れざるべからず、支那事變に關して英米は協同して敵性を發揮するやも測り難い。けれども東亞に毅然たる帝國陸海空軍の威容と我が國民總力の充實とは、大東亞及び太平洋に於て彼等一指をも觸れしめず、更にまた彼等を牽制して大西洋及び歐洲に於ける活動を減殺せしむるに至るであらう。これは帝國の彼等に與ふる一大脅威であるといつてよい。

新秩序の世界

のみならず三國が固く提携して、獨伊は歐洲に、日本は大東亞に、各、その指導的地位に立つて新秩序の建設に邁進することは、國際政局に一大轉換を來さしめ、世界經濟文化に一大變貌を起さしめ、かくして世界歴史に一大轉機を生ぜしむるものと見ることが出来る。即ち今後は從來の如き英米を中心とする自由主義的資本主義的帝國主義的傾向は影を潛めて、諸國家が各、その所得、諸民族がみなその堵に安んじ、以て相互に和親し共存共榮の實をあぐる新體制が樹立され、かくて世界は數個の國家群に分れて指導的國家の下に諸民族國家の平和と安定とが確保され、自給自足經濟の下に安居樂業を享受し、そこからまた新らしき文化が発生することとなるのである。

皇道の世界的
躍進

而もまたこの新秩序新體制の世界は我が皇國の精神にも合致するものであることを銘記しなればならぬ。即ち萬邦をして各、その所得しめ、諸民族をして共存共榮の實をあげしめ以て世界恒久の平和を確立し、帝國をして大東亞に於ける新秩序の指導的地位に立たしむるといふ條約の根本精神は、八紘を一字として世界の平和を確立し萬民をしてその堵に安んぜしむる我が皇國の大精

神と軌を一にするものといふべく、かくして皇道を世界に宣布すべき好機が二千六百年の今日我等の前途に到來したものと見ることが出来るのである。我が帝國は茲に國史をして更に光輝あらしむべき世界的躍進の秋を迎へたのである。

第八章 現代文化

物質文化と自由精神

【教授要項】 現代文化の根本基調は大體に於て最近世文化の繼續であるとしてよい。即ち最近世に於て主潮をなした物質文化と自由精神とが更に大なる發達をなしたもので世界大戰はこれに一層拍車をかけたのである。世界大戰は人間があらゆる力を傾けつくして闘ひ、また最も強く自己を主張して他を否定排撃せんとしたものであつて、そのために人間はあらゆる智慧を絞つて物質・自然の力を利用せんとし、また最も強く自己主張のための自由精神を發揮したのである。かくて戦争によつて物質文化が異常なる發達を來し、經濟が國策として重要視せられ、また大戰直後には自由主義が益々横溢するに至つた。民族自決主義、民主的共和政體等の流行はこの範疇に入るものといつてよい。

物質支配の世相

然るに物質文化の隆盛は物質支配の世相を現出せしめた。人間すべてがその個人的・社會的・國家生活に於て物質のために最も強き支配をうくることとなり、機械のために、産業のために、ま

經濟統制の出
現

國際主義

國粹・全體主義

たは經濟のために完全なる征服を甘受せざるべからざることとなつたのである。大戰後經濟的不況のために社會的國家的大問題を惹起して國運の進展を阻害し、時には國家的危機を招くに至つたことはこの缺陷に直面した人間の最も苦い經驗であつたといつてよい。そこで人間は再び人間を中心として經濟を支配し、人間のための經濟たることを如實にし始めた。それが産業の合理化、經濟統制等であり、經濟を人間社會國家のために統制せんとする傾向である。思想上に於てもまた破綻を來した。それは自由主義を基調とする國家間には再び大戰前の如き相剋摩擦が甚だしく、民族自決の高調するところに於ては、異民族間及び同一民族間に利害の衝突が激化して紛争を繰り返し、そのために相互に協約を設けて國際的親善と協調とを旨とし、または國際聯盟によつてその秩序を維持し紛争を解決せんとするに至つた。のみならず共和政體內に於ても、また自由を高調することにより、小政黨の簇出と黨争の激化を甚だしくし、その間隙に乗ぜられて社會黨・共產黨が跳梁跋扈し、遂には國際赤魔のために國を滅ぼさんとするに至り、茲に國粹主義・國家主義の擡頭となり更に自由主義に對立する全體主義の發達を可能ならしむるに至つたのである。従つて現代は自由主義對國家主義・全體主義の對立時代であるといつてよい。

物質文化の躍進

交通・通信の發達 交通に於ては飛行機・飛行船及び大型快速の汽車・汽船と自動車が驚異的發

航空機の發達

達をなした。航空機の發達は瓦斯機關の發達と機體研究の賜である。ガソリン機關 (Gasoline Engine) は蒸氣機關發電氣等の如く多量の燃料または發動機具を所持する必要なく、且つ豫め蒸氣を作るかまたは可燃瓦斯を發生せしむるかの工作を必要とせず、而も燃焼が短期間にして強力なるが故に高速度回轉作用に適し、従つて航空機の推進器運轉には極めて好適のものとなつたのである。かくて一九〇三年米人ライト兄弟の飛行機は僅かに八五〇呎を飛ぶに過ぎず、翌々年漸く二十四哩を飛翔したが、一九〇九年佛人ブレリオ (Blériot) はイギリス海峡を横斷して世界を驚嘆せしめたものであつた。然るに世界大戰中航空機は敵情偵察・爆撃等によつて嚴重なる敵の地上警戒線を空中より突破して敵國深く侵入し、立體戦といふ世界史上最初の新戦術をも現出せしむるに至らしめたので、新銳武器として最もよく研究され、機體の改良、機材の研究等に全力を注ぎ、かくて長足の進歩を來すに至つた。従つて戦後に於ても航空速度・距離・高度・積載量・安全率等の進歩著しく、多くの新記録を出現した。一九二四年には米人スミス (Smith) が各地に着陸し、六箇月を要して世界を一周したが、その後は各國人によつて世界一周または歐亞・歐米・歐濠等の長距離大飛行が試みられ、一九三一年ポスト及びゲッティ (Poste and Getty) がニューヨーク—ベルリン—モスコ—ノーム—ニューヨークの間二萬六千呎を八日十五時五十一分にて世界早廻記録を立て、更に一九三八年七月には米人ヒューズが航空距離一萬四千六百八哩を九十一時間十四分にて翔

世界一周飛行

飛行記録

破して前記録を破つた。ドイツのツェッペリン飛行船がエッケナー博士に操縦せられて世界を一周したのは一九二九年であるが、二十二日を要してゐる。かくてマジランが世界周航に三箇年を要したことを考ふるならば、誠に隔世の感がある。現代飛行機のもつ最高記録は速度に於て時速は陸上機五六七軒(一九三六)水上機七〇九軒(一九三九)、高度は陸上機一五、三三〇米(一九三六)水上機一一、七五三米(一九二九)無着陸飛行は陸上機九、一〇五軒(一九三九)水上機五、二八〇軒(一九三五)であるが、無着陸長距離は我が航研機によつて新記録一一、六五一軒が樹立され(一九三九)、更にイタリア機は一二、九三七軒(平均時速二二六軒)の新記録を作つた(一九三九)。茲に列國民間航空の概況(一九三六年度)を示せば次の通りである。

民間航空

國別	飛行機數	定期航空路總軒	輸送旅客	輸送貨物	郵便物
英	一、六九六	五三、六六三	二〇〇,〇〇〇	一、八九八,〇〇〇	七五,〇〇〇
米	九、二二六	一〇三,四五三	一、一四六,一三八	三、七八三,二〇九	八〇四,五五七
佛	二、三三〇	五三,三四五	五九,三三六	一、〇二四,二八一	三四八,六三六
蘇	—	七〇,五五一	二〇八,一三三	三三,三〇〇,〇〇〇	七五〇,〇〇〇
獨	一、八二二	六九,四四五	二八六,三二一	四、八四八,三四五	二,五九七,〇〇五
伊	四六九	三三,七〇六	五七,三二二	一、〇一九,七六四	二七〇,一八三

これを以て各國に於ける現代飛行機の實用に關する一般を察知するに足るであらう。

汽船の發達

また汽船は一九二〇年代に於て四萬八千噸より五萬噸級のものを以て大西洋に就航してゐたが、一九三〇年代にはイギリスのクインメリー號が八〇、七七四噸(速力二二)、フランスのノルマンディ號が八三、四二三噸(速力二二)をもつて世界に誇り、ニューヨーク—シエルプール間を四日乃至五日に航海し得ることとなつた。汽車の改良も相ついで行はれたが、茲には省略する。自動車及びトラックはアメリカが最も發達して一九三六年末の調査によれば、アメリカ合衆國が二千八百萬臺(人口五人に)にて世界の七割二分、イギリスが二百十三萬臺(人口二十二)、フランスが二百十萬臺(二十人)、ドイツが百二十四萬臺(五十人)等である。

ラヂオの發達

通信に於てはラヂオ・無線電話が最も長足の進歩をなした。ラヂオは一九二〇年アメリカに於て、一九二二年イギリスに、一九二三年ドイツに於て始めて實用に供せられたものであるが、電波を通じて受信機により容易にすべての人に聴取されるものなるが故に、娯樂・修養・通信・報道機關として最も大衆的效果を發揮するものの一となつてゐるのである。かくてラヂオは十八世紀末より十九世紀中葉にかけて著しき發達を遂げた新聞紙と其の効果を争ひ、現代はむしろその報道の敏速性と強力性に於て新聞を凌駕せんとし、従つてそこに偉大なる宣傳的價値があると見る事が出来る。ついで無線電話はラヂオが一方的なるに比し、雙方の實用的なるところに價値を認め得る。商用通信用の外に政治上・外交上に於てもまた偉大なる効果を發揮してゐる。世界大戰に於ては海底電線

無線電話

が世界通信の最大幹線であり、従つて世界各國の植民地間に海底電線網を所有するイギリスが各國と聯絡を密にして獨・塊を孤立に陥れた。然るに今は無線電信・電話を有するために世界各地との通信は全く自由である。獨・塊合併やドイツのチェッコ保護等の交渉が電話で行はれたことは著名のことである。同時にまたこれらが軍事上に於ても盛に利用されてゐることはいふまでもない。かくて交通・通信の發達は世界の距離を時間的に短縮せしめ、その交渉を容易・敏速・頻繁に行はしめてゐる。それが政治・經濟・文化・外交等に如何に重要な貢獻をなしてゐるかは茲に改めて述ぶるを要しないであらう。特に軍事方面に於て飛行機・自動車・トラック等が近代的戰法としての科學戰・立體戰に如何に華々しきかは既に述べたるが如くである。

交通・通信の
價值

重油機關

工業の發達 大戰後の動力用として内燃機關 (Internal Combustion Engine) の使用が盛となり、工業の發達に大いに貢獻した。中にもガソリン機關が航空機・自動車等に使用されてゐることは既に述べたところであるが、更に重油機關 (Heavy Oil Engine, Diesel Engine, Rudolf Diesel が一八九七年重油を高壓氣筒内にて燃焼せしめピストンを動かすことを發明せるもの) が廣く使用せられて、工場・船舶 (小型發動機船より大型遠洋航路船舶に至るまで) 軍艦等の原動力となつてゐる。その他従來の蒸氣機關・電氣機關も盛に用ひられて、工業用動力は益々豊富となり、大いに工業の發達を促進するに至つた。特にアメリカ合衆國・イタリヤ・日本等に於ける水力・電氣事業の發達には著しきものがある。

工業の發達

工業は産業革命當時の如く綿絲紡織・毛織物製鐵製鋼機械製作の如きものが各國の主要工業となつてゐることは今日に於ても尙然りである。けれども十九世紀末よりドイツを中心として理化學の應用による精密機械器具の製作、及び化學工業が發達し、正に新紀元を劃するものとして第二の産業革命ともいはるに至つた。即ち第一産業革命に於て學理の應用はたゞ機械・動力等のみ注がれ、製産過程・製産法等には深く及ばなかつた。従つて製産の量に於ては莫大に増加しながら、製産の質と種類に於ては殆ど従來のものに何等加へるところがなかつたのである。これらは特に綿絲・紡織・毛織物等について立證し得らるのである。しかしながら第二の産業革命に於ては學理の應用が製産の資源及び全般の製産過程に及ぼされた。さうして新資源の利用・發見があり、新製産法の發明・改良があつて、製産されるものの質及び種類に於て新らしきものと精巧なるものが豊富に現出することとなつたのである。この現象は大戰後より現代にかけて特に顯著な傾向を見せてゐる。この新傾向は二つに區分せらるる。第一は製産法の改良・發明であつて、そのために従來の機械製作工業に一大躍進が行はれ、または新様式の器具機械が現はれたことであり、例へばアメリカ・ドイツ等に於けるが如く大規模なる最新式諸機械器具の出現及び飛行機・自動車・電氣機械器具等の製作が隆盛となつたことである。第二は原料とその製産法の研究であつて、主として化學工業を意味し、無機化學工業としての酸・アルカリ工業 (硫酸・硝酸・塩酸・苛性ソーダ・ソーダ灰等) 人造肥料工業 (磷酸肥料窒素肥料加里肥料) 冶金精鍊業・窯

新産業革命

機械工業

化學工業

新工業の隆盛

建築・土木

業(陶磁器・セメント・ガラス)、有機化学工業としての油脂工業(油脂硬化・石鹼・塗料等)、石炭乾溜工業(ガス・焦炭・液體燃料・コールター・再蒸溜)、纖維素化学工業(紙・セルロイド・セロファン・レイヨ)、ゴム工業・皮革工業等が特にドイツ・日本・アメリカを通じて盛大となつてゐる。これらは何れも時代の寵兒として新産業革命の代表的なるものといふべく、殊に人造絹絲・人造棉羊毛・石炭液化空中窒素固定・人造ゴム等は更に將來の發展を約束するものとして重要視すべきものといつてよい。次に建築・土木に於ても、化学工業の發展に伴ひ、セメントの性能を研究してコンクリート建築を始め、その製法の簡便低廉なると、建築の堅牢なることにより、最も廣く使用せらるるに至つた。従つて道路・橋梁・隧道・港灣・河川・連河・水路・ダム等より壯大なる建築には殆どこれを用ひざるものなく、更に鐵筋を用ふることにより一層これを強化するに至つた。これらは中世より近世にかけての石造建築に比し、その建築の容易と材料の豊富等に於て遙かに凌駕し、現代土木建築の一特相として各國にその威容を示現してゐるのである。かくして交通・通信が發達し、工業が進歩するにつれて、商業の發達も著しく、而もそれが次第に國際性を帯びて世界的經濟圏の出現を見んとしてゐる。

經濟政策の重要

經濟と國家 科學の進歩による交通・通信・動力及び機械の發達が、工業・商業の發達を促し、以て一般國民生活を向上せしめたことは自明の理であるが、かかる經濟事象が國家經營及び國運の發展

經濟の優越

經濟と國民及び國家

經濟の重要性

に關して現代ほど深き關係をもつことは世界史上曾て見ざるところである。例へば封建時代に於ても、諸侯の活動は經濟を基礎とし、近世に於ける帝王君主の國家的發展に於ても富國強兵がその根柢たりしことは明らかな事實である。けれどもそこにはなほ權力が經濟よりも優れてこれを支配し、統制することが出來た。經濟に拙劣なりしナポレオンが、大活躍を成し遂げ得た原因もまた茲にありといふことが出来る。しかしながら最近世以來現代にかけての國家は殆ど經濟を主とし、經濟によつて盛衰が左右せられてゐる。最近世のイギリス、世界大戰前に於けるドイツの發展を見るならば、このことは如實に理解さるるであらう。商工業の發達が金融と財政とを充實せしめて國家活動の根源を培ひ、經濟の發達が國民の生活力と民族的發展を旺盛ならしめ、海外貿易と國內工業とは植民地と勢力範圍とを要求し、更に經濟と科學と國民精神との結合が軍備を擴充強化し、國家的發展を可能ならしめ、國家の權益と正義と主張とを貫徹せしむるに至つた。即ち經濟の充實を基礎とする國家百般の活躍は、國家の發展と國運の隆昌を來さしめ得るといふことが出来るのである。第一次世界大戰に於けるドイツ軍の強みはその作戰と士氣とによること勿論であるけれども、その目的を達成せしめたるものはその背後にある科學と經濟の賜といふを得べく、然るに四年の後に於けるドイツの敗北は、聯合側の封鎖による經濟的困窮にその最大原因を求めることが出来るのである。更に世界大戰後の各國に於ては經濟的不況のために混亂を來して國家的破産の危機に直面し、その

ため何れも舉國一致の體制を整へて赤字財政の整理、國際爲替相場の安定、不振産業の振興等を計るに至つた。フランスのフラン價切下げ、アメリカの産業復興法、ドイツの産業合理化などは最も成功せるものといはれてゐる。

しかしながら各國の經濟政策はやがて一變するに至つた。今まで各國はイギリスの成功に眩惑せられて自由主義經濟政策を最高の信條としてゐた。けれども國際間に於ける經濟現象の自由放任は大戦後に於けるが如く國家そのものの危機を招いたのである。即ち經濟の自由を尊重することによる經濟の絶對的支配が、國家及び國民の存在をも危くしたのである。そのために物資の豊富なる國または資本主義的帝國主義的國家が榮えて、物資の貧弱なる國または天産物を本國のために搾取する植民地は衰頹することとなつたのである。かくて茲に國家を中心とする經濟の統制が國外及び國內に向つて行はるることとなつた。即ち國外に對するものは國際的自由貿易主義より國家を本位とする保護貿易主義への轉換を望み、または經濟ブロックの結成を欲したのである。されば各國は自國を中心とする國家經濟を樹立するため國內經濟の充足と發展を基準として關稅による貿易統制を行ひ、または本國と植民地等の如く特に經濟的依存關係の密接なるところに於ては、相互に特惠關稅條約を結び、他を排斥せんとするに至つた。一面より考ふればこれは國際的資本主義の修正であるといつてよい。經濟ブロックが特にイギリスとその植民地間に於て最も緊密に結ばれたことは注

自由主義經濟の破綻

經濟の國家的統制

統制經濟の原因

統制經濟の内容

經濟觀念の修正

目すべきことといつてよからう。しかしながらそれよりも國內に於て更に一步を進めたものは統制經濟である。世界大戦中各國は生活の必需品や軍需品を他國に仰ぐことの極めて困難なることのため、自給自足の經濟を樹立せんとすることが要求され、また自由經濟による國民の自由生産と、消費及び交換(貿易を含む)が結局一國內の經濟を不均衡ならしむるがためこれを調整する必要を痛感するに至りたること、軍備擴充の必要より國家經濟を準戰時または戰時體制に編成替する必要より國民の經濟活動を國家のために統制する必要を感じたること等により、茲に國家の自給自足または重要國策の線に沿うて經濟統制を行はんとするに至つたのである。統制經濟とは國家的見地に立てる經濟企畫に従つて國民の生産消費配給交換等を統制するものであり、更に進んでは經濟機構全般に互つて勞働統制資金統制物價統制金融統制貿易統制爲替統制をも行ふものであり、大戦中より今日に至るまで特にドイツを中心として行はれ、最近日獨伊樞軸國が何れもこれを行ひつつあるものである。この統制經濟をまた計畫經濟ともいふ。それは國家が國策の線に沿ひ一定の目的に従つて計畫を立て、その企畫に従つて經濟全體を統制せんとするがためであり、經濟をもつて經濟のみものたらしめず、それを國家軍事政治國民生活のものたらしめんとし、全體的國家的見地に立つて經濟を計画的に統制せんとするのである。従つてこれは從來の自由主義經濟に比しては正に百八十度の轉回といひ得る。即ち經濟行爲は個人のみ生活と富と幸福とを計るものにはあらずして、

それは國家全體または國民全般の隆昌と繁榮と幸福とを計るために國民が協同して行ふところのものとなつたのである。また經濟行爲は利己的・自由主義的なるものにはあらずして、國家の遠大なる目的または國民全般のためのものとなつたのである。従つてこれは經濟史上に於てもまた特筆すべき大轉回であるといはなければならぬ。全體主義的國家の成否はかかる全體主義的經濟政策の成否に俟つところまた極めて大である。

自由主義と國際主義

大戦後の自由主義 大戦後の歐洲に自由主義が旺盛となつた原因は、凡そこれを四つにまとむることが出来る。第一は自由主義國が勝利を得たことである。特に平和會議に於てフランス・アメリカ・イギリスが主導者となつたことは新國家の建設、その政治的組織等に於て著しくこれを自由主義的・民主主義的なるものたらしめた。第二は帝政國が惨敗したことである。就中ドイツ・オーストリアの敗戦はその國民をして責任の大半を政府及び帝王に負はしめた。元來ドイツもオーストリアも近世に至るまで多くの小君主または小國家に分れて獨立せるものであり、それがハプスブルグ家・ホーエンツォレルン家によつて統率せられてゐたのである。従つて帝王と國民とが最後まで利害休戚を共にしようといふ觀念をもたぬ。されば敗戦の最後にはその責任を帝王に負はせてこれを捨て、國民・民族自からの安全と獨立を計らんとするに至つたのである。第三には各國に於ける民族運動で

自由主義旺盛の理由

ある。特にオーストリア・ハンガリアに於てはドイツ人たるオーストリア人、ハンガリアに住むマジャール人 (Magyars)、その他チェク人 (Czechs)、スロヴァク人 (Slovaks)、ルテニヤ人 (Luthenians)、ルーマニヤ人 (Rumanians)、クロアチア人 (Croats)、スロヴェニヤ人 (Slovenes) があり、ロシヤにはスラヴ民族たる大ロシヤ人 (Great Russians)、白ロシヤ人 (White Russians)、小ロシヤ人 (Ukrainians) の外ポーランド人 (Poles)、リトワニヤ人 (Lithuanians)、レット人 (Letts)、フィン人 (Finns)、エストニア人 (Estonians) 等があり、何れもオーストリア帝國及びロシヤ帝國より壓迫を被つて苦しんでゐた。従つて彼等の間に民族的獨立が熱望されたことは當然のことといつてよい。第四には共産主義の隆盛である。これは國民の大多数を占むる農工労働者が經濟上より優越なる地位を占めんとし、資本家及びこれを擁護せんとする帝王政治を倒して労働者の獨裁的勢力を樹立せんとするものであり、そのためにロシヤが倒れ、ついでドイツ・オーストリア・ハンガリアも倒れてそのあとには民主的なる政治機構が樹立せらるることとなつたのである。

従つて大戦後歐洲を風靡せる自由主義は民族自決主義に基づくものと、共産的社會主義に基づくものがあつたと見ることが出来る。民族自決主義はヴェルサイユ平和會議に於てアメリカ大統領ウィルソンが最も熱心に唱へたところのものであつて、同一民族であるとの信念をもち、人情・風俗・言語・思想・歴史等を共通にし、且つ生存上の利害關係及び歴史的運命を共通にするものは最もよく

民族自決主義

民主的共和制

團結して鞏固に幸福なる國家を形造り、これを他國に隸屬せしむる時は常に不幸と鬭争とが絶えないといふ見地に立ち、民族は民族自體に於てその所屬または獨立を決定せしむべきであると考へ、かくて各小民族を從來の大國家服屬より解放し、その自決に従つて國家を形成せしむるに至つた。そのために露・澳・洪諸國に於て多くの小獨立國が成立することとなつたのである。然るにこれらの小獨立國に於ては、その民族内に極めて自由意識が旺盛であつたから、國民の合意による政治形式を要求して專制的なるを欲せず、また國民のすべてがこれを認むる如き帝王的人物がなかつたので、自から民主的共和政體をとり、國民の普通選舉によつて議會を開き、また大統領を選舉して國政を運用せしむることとした。ただロシヤに於ては共產主義國であるために多くの社會主義共產國家が聯邦を組織し、その聯邦に於てはロシヤ共產黨の幹部が全權を握り、諸種の委員會に於ける決議によつてすべてを支配することとなつた。けれども委員會の中樞委員が勢力を占むること多く、最も民主的なるべき蘇聯政治が、最も高壓的・命令的・且つ專制的なることは憐むべき一つの矛盾といつてよからう。

國內的自由主義も國外に於ては自國主義である

國際主義の發達 自由主義的民主國は、國內に於て自由を重んじ權利を尊重するけれども、國際間に於ては自國主義であり、他國の權益よりも自國のそれを重視すること勿論である。一般に自由主義そのものは自己主義即ち個人主義に基づくものであり、それが國內にあつては法律と道德の力

國際協調主義

によつて跳梁と横暴とが抑制され、秩序と平和とが維持されてゐるものであるけれども、國際間に於ては自由主義がその本性を顯はして自國主義となり、而もこれを掣肘抑制すべき有力なる機關規約等のあらざる限り、何れも兵力を蓄へて自國を防禦し、自國の主張を貫徹せんとしてゐるのである。従つて自由主義的民主國に於てはこれらの相剋摩擦を防ぐため國際間に協調の必要が痛感せしめらるるに至つたのである。殊に世界大戰の痛苦と慘禍とは列國をして戦争防止と國際的協調の必要を悟らしめ、更に文化・經濟等の頻繁なる接觸により相互に和親せんとする傾向を生ぜしむるに至つた。既に述べたるが如き國際聯盟・國際會議・軍備縮小會議・經濟會議等は何れもこの趣旨によりて開催せられたるものといふことが出来る。

國際聯盟・國際會議等の破綻

然るにこれらの聯盟・會議等には表面極めて崇高なる美辭麗句を並べながら、裏面に於ては自國中心主義と排他優越主義が蟠居してゐた。國際聯盟は英・佛が歐洲に於て自國を中心とする國際秩序を維持せんとし、國際會議に於ては自國の國際的地位を有利に導かんとせるものであつた。即ちロカルノ會議はドイツの勃興を制し、英・佛の支持する小國の自主獨立を保障せるものであり、軍縮會議は英・米の海軍を優越にし、また日本を抑制してアメリカの太平洋覇權を確立せんとしたものである。ロンドンに於て開かれた世界經濟會議は最も露骨に各、自國の利益を主張したのであるが、遂に何等の成果を見るに至らず決裂してしまつた。従つてそれらの國際會議は國際聯盟そのものと共

に極めて表面的にして何等崇高なる目的と誠意によるものにはあらず、内面には深く自國主義を包蔵するものと見るべく、國際聯盟が破綻し、軍縮會議が廢棄さるるに至つたこともむしろ當然の運命と見てよいのである。

● 國家主義の擡頭

● 國家主義の勃興 ● 國際主義の破綻が國家主義勃興の一因となることは確かである。國際間には自國主義が根柢をなして、如何なる國家も自國のためのみを計り、自國の權益を犠牲にしても他國のために計りまたは自國の滅亡と衰頹をも顧みず世界平和のために努力するものはないのであるから、自國と他國との利害衝突は自國の力を以てこれを主張しなければならぬ。然るに聯盟は無力にして國際的紛争を平和裡に解決する力がないため、軍備縮小條約廢棄通告後、列國は自由に軍備の擴大強化を計つて自國を防衛し、その主張を貫徹し、通商植民地等を保護するに至つたことは當然のこと、茲に各國の國家主義が胚胎したのである。就中最も熾烈なる國家主義はドイツイタリヤを中心として起つた。その原因としてあげべきものには上述せる一般的なるものの外に、特殊なるもの三つを數へることが出来る。第一は國際コミンテルンの活躍による世界赤化運動の魔手が伸びて、國內闘争を激化せしめ、やがて國家の衰滅を來さんとせしこと、第二はヴェルサイユ條約に制せられて、國力の復興と發展が不可能とされ、やがては國家が滅亡の運命を見んとするに至りし

國家主義盛となる

國家主義勃興の原因

ドイツの國家觀
ヒットラーの主張

こと、第三にはそのために國家興隆への國民的熱望が高まり、旺盛なる民族精神を奮起し、渾身の努力を盡してあらゆる障害を排除し、以て民族と國家の隆盛を計らんとするに至つたことである。

● ヒットラーの「我が闘争」(Meine Kampf)には國家を定義して「國家とは目的のための方法である(Der Staat ist ein Mittel zum Zweck)」。その目的とは身體的及び精神的に同一なる民族としての生活協同體を維持發展せしめんとすることである。従つてそのためには民族の中に假睡するすべての力の自由なる暢展を爲さしめざるべからず、それらによつて一方には身體的生活の維持を第一線にまで推し進め、他方には精神的發展の偉大なる進歩を爲さしめねばならぬ。かくして一つのものに常に土臺となつて新らしきものを創造してゆく。かくて民族的國家の最高目的はその民族のもつ根本的要素——即ち文化的遺産としての最も高尚なる人間性の美と威嚴と價值とをつくりとこの根本要素を擁護・伸展せしむることである。吾人はアリヤン人として吾人をつ一つの國家にまで構成し、また國民としての潑刺たる組織の中に結成せしむる。さうしてこの國民の維持發展は民族のもつ精神的及び理念的能力の廣き教養によりこれを最高の自由にまで到達せしむることに於て確實にさるるのである。即ち彼の國家は同一民族によつて構成さるるものであり、それはドイツ民族の祖先たるアリヤン民族の血(Blut)をうけたるもののみを稱され、その民族のもつ文化遺産としての最も美しく最も價值高き根本要素を擁護し、その民族の精神的・理念的・能力(Der geistigen und

その意義

民族的・文化的協同體

ideellen Fähigkeiten) を最も高く自由 (zur höchsten Freiheit) にまで到達せしむべき使命をもつものである。従つて彼の國家觀には民族 (Rasse) なる觀念が極めて強く、それは「我が闘争」及びローゼンベルグの「二十世紀の神話」(A. Rosenberg, Mythos des XX Jahrhunderts, 1930) に述ふる如くアリヤン民族の純粹なる血によつて結びつけられたる民族協同體 (Volksgemeinschaft) 及びその民族のもつ優秀性によつて形造られたる特有の文化協同體 (Kulturgemeinschaft) を意味し、かくて民族の混淆はその團結と優秀性とを弱化するものなるが故に、ユダヤ人の如き極端にこれを排斥し、以て血と文化 (Blut und Kultur) の純化と強化を計り、その發展を最高なる自由の領域(即ち自國を中心とする世界的新秩序)に於て求めんとしたのである。

かくして成立せるナチス國家は民族主義と國家主義とが結合せる概念の上に立つ。従つて國家内に於ては民族または國家が重く、個人の地位は低い。從來ヨーロッパに於て行はれてゐた個人の存在と權利と自由は絶對であるといふ理論、國家と個人とを比ぶれば個人は國家よりも遙かに重く國家は個人の生存と自由のために存在するといふ學說などは排斥され、個人はすべて國家のために、個人の精神的・身體的勞働は先づ國家のために捧げられねばならぬと主張さるるに至つた。社會上に於て勞働奉仕が重んぜられ、國家のための青年團が組織されたことも、經濟上に於て自由主義的資本主義機構が排斥せられて、國家社會全體としての統制經濟・計畫經濟が行はれつつあることも、

新國家生活觀

新經濟生活

歴史の尊重

政治上に於てナチス精神を一貫して殆ど國粹社會黨及びその指導者の獨裁政治たる如き觀を呈すること、みな國民のもつあらゆるものを民族と國家のために捧げんとしたものといふことが出来る。次にまたナチス國家は民族と國家とを尊重するが故に、民族の根元たる血を尊び、民族精神を重んじ、血の保存と發展に意を用ひ、民族國家精神の時代的表現を明徴ならしむるため歴史を重要視する。かくて従來のドイツ史を書き改めて、例へば R. Suchenwirth, Deutsche Geschichte von der Germanischen Vorzeit bis zur Gegenwart, 1939. Leipzig. の如き時代區分をゲルマニヤ時代(原始時代)・フランク時代(民族大移動よりチヤールスマグヌス大帝時代まで)・第一帝國時代(神聖ローマ帝國時代、一八〇六年まで)・第二帝國時代(ドイツ統一運動より一九一八年の瓦解まで)・第三帝國時代(ナチスの出現以後、將來まで)となして、ドイツ民族國家とドイツ文化の發展を説き、ローゼンベルグの「神話」に於ては、ゲルマン民族の本來的な藝術としてゴシック藝術を讚美し、その藝術の中に於ける人格價值、民族的な美的理想、高尚な美的意欲を高調し、更にベートーヴェンの音樂に現はれたる人間的な偉大さ、ワグネルの樂劇に示現せられたる明確なドイツ民族の藝術性に深き敬意を拂つてゐる。その他文學・哲學・思想・科學・經濟より政治軍事はいふに及ばず、國家の歴史と光榮とに偉大なる光輝を放たしめたる人々を尊敬してゐるのである。かくして茲から民族精神の確乎たる認識が得られ、祖國とその歴史に對する感激と光榮が與へられ、國家と民族とのために奉仕せんとする國家主義が養はれゆくのである。

文化の尊重

民族性の認識と教養

シュパンの普
通主義との相
違

この民族的國家主義はオットマー・シュパン(Othmar Spann, 1878—) オーストリアの經濟學者、社會學者にして、嘗てはオーストリア國家主義者であつたが唱ふる普遍主義(Universalismus) 我が國にては全體主義ともいふとは異なるものなりといひ、ローゼンベルグはその著「神話」中に於てシュパンの「社會哲學」(Gesellschaftslehre, 1928. München)をひいて彼の社會國家概念中には文化要素(歴史、言語、文、化、經濟など)を重要視して民族結合(民族の根柢たる血の共通)を輕視するとしてその主知主義を排撃し、普遍主義は個人主義の雙生兒(Zwillingsbruder)であるといつてゐる。またそれほど民族に於ける血の觀念を強調してゐるのである。

我が國民精神
との比較

相違する點

次にナチスの民族國家主義は我が國民精神と極めて多くの共通點をもつてゐる。例へば(一)個人よりも國家を重んじ、國家に對しては私を滅して犠牲的精神を發揮し、奉公の誠を致さんとする點、(二)光輝ある歴史を尙び、國民精神を重んじ、國粹的文化を尊重する點、(三)常に國運の隆昌と文化の創造に留意し、且つこれを世界的に發揚せんとする點等その重なるものといつてよい。けれどもまた兩國にはその根柢に於て相違するところあることを知らねばならぬ。それは言ふまでもなく兩國の起源に於て、我が國は皇祖天照大神の肇國し給ふところであり、ドイツはただ民族の集合せるところであり、また我が國は皇祖の御子孫が萬世一系の寶祚を踐み給ふところなるに、ドイツは民族中の優秀者が現はれて皇帝となり、總統(指導者)となつて國家を統治するところであり、従つて我が國には君臣の分定まれどもドイツには君臣の分定まらず、我が國は皇室のため御神勅・御詔勅

ナチスの國家
組織

を奉じて忠君愛國・滅私奉公の誠を致すものであるけれども、ドイツに於ては民族のため祖國のため光榮ある名譽のために集團勤勞と勞働奉公と祖國愛への赤心を捧げんとするものであり、従つて一身を皇室と國家とに捧げ盡さんとする我等日本人と、ナチス黨の精神を體得しナチス黨に身を捧げて以て祖國と民族への奉仕をなさんとする彼等との間には、その行爲の精神的根據に於て相違するものがあるといはなければならぬ。

最後に全體的國家主義の國家組織は、極めて統制的であり、また組織的である。ドイツに於ても全國民の中樞をなすナチス黨の幹部が内閣を組織し、最高國策はヒットラーを中心とする最高首腦部によつて決定され、その方策に従つて各省大臣が政務を管掌する。その組織は一系亂れず實によく組織化されてゐるので、國策法令は國の隅々までも徹底することとなつてゐるのである。のみならずすべての政治・經濟・文化及び國民生活は盡く國家的理想または最高國策のため統制され、國家及び國民の全機構が新國家體制の下に統一せられてゐる。特に經濟統制・文化統制・生活統制等が整然として徹底され、國民の營む經濟文化・生活が盡く國家のために捧げられてゐるのである。従つて戰爭・外交その他國家のあらゆる總力を發揮せんとする場合、特に顯著なる偉力を發揮するものあり、この點自由主義的國家の到底企及し得ざるところである。

かくて今次の大戦により自由主義國が没落して國家主義國が全盛を謳はるるに至つたが、この歴

史の一大轉回に即應して世界の思想も經濟も文化もまたその面目を一新するであらう。即ち世界の
 大勢は、我が帝國を中心とする大東亞國家群、獨伊を中心とする歐洲國家群が將に成立せんとして
 相互の諒解提携成り、英米は合作して新國家群を作らんとする形勢にあり、蘇聯もまた畫策して何
 等かの行動に出ようとしてゐる。従つて今後の世界にはこれらの國家群を基調とする新たな政治・
 經濟・文化の成立を見んとしてゐるのである。而して英米は舊體制と舊秩序を墨守する關係上依然
 傳統の文化を維持してゆくであらう。蘇聯は特殊の體制と秩序をもつて自己のもつ思想文化を展開
 するであらう。ひとり國家主義國のみは潑刺たる意氣をもつて國內の新體制を整ふると共に國際的
 新秩序の確立に邁進し、經濟に於ても廣域自給自足經濟・新國內經濟體制等を樹立し、従つてこれら
 の新政治・經濟・社會組織の間からそれと呼應して新文化の出現を見んとしてゐる。特に日獨伊三國
 條約の締結による東西兩國主義國群の提携は、最も強力堅固なる最高文化の建設を約束するもの
 といふべく、やがてそれは世界史上に偉大なる光輝を放つであらう。

(をばり)

最近世史

フランス革命

〔平民の慘苦〕 (師105、中126、女81、實99)

當時の戲畫による。平民が眼隠しをされ、手足を鎖にて繋がれ、瘦せ衰へてゐながら、肥え太り
 て贅澤な服装をせる王侯・僧侶・貴族に壓迫せられつゝあるところである。王侯は手綱をもち權力の
 鞭をふりかざし、僧侶は右手に「宗教裁判」「破門」等の文書をかかけ、腰に僧權の象徴たる法杖を
 携へ、貴族が最後に便乗してゐる。

〔ルイ十六世〕 (師106、中127、女83、實100)

本書六八六―七〇二頁参照

〔三部會〕 (師106、中127、女82、實100)

これは一七八九年五月五日の三部會開會の光景。圖の左方最上位に國王ルイ十六世(椅子に坐す)・マリ
 ーアントアネット(その右方)、その他の一族あり、その前面階段下に卓子を前にするは諸大臣にて、右手
 をあぐるはネッケル、議場にて左方一群の議席に坐せるは僧侶階級、右方は貴族階級、中央即ち圖の
 右隅にある一群は平民階級の代表者であり、その中にはミラボー(議席の中央に立ち、後向きになれるもの)・ロベスピエー

ル・ペイイ・アベシエイエなどが見える。

「マリーアントアネット」(女 83)

ヴェルサイユ宮殿女王の間の壁に描かれたる大壁畫。圖はその當時最も有名な畫家ルブラン夫人の筆にかかるもので、誠に絢爛たるものである。王后は高雅な羽毛に飾られたボンネット(子帽)をかぶり、手に寶石のある腕輪・指輪をはめてゐる。その傍に氣品高き子女達を配してゐるが、何れもその頃の宮廷風俗を知るに足る資料である。

「國民議會の宣言」(師 106、中 128、實 101)

ヴェルサイユ博物館(宮殿内にあり)にある壁畫にて、ダヴィッドの筆。ジエドボムといふ王室用屋内球戯場に平民議員が集まり、ペイイが中央の椅子に立ち、右手をあげて宣言文を朗讀し、議員がこれを歡呼してゐる。右端前面に黒衣をきて左手に帽子をもち、右手を高くあぐるがミラボー。ペイイの前面には僧侶と貴族と法官とが握手提携してゐる。

「ギョチヌ」(師 108、中 129、女 83)

ギョチヌ (Guillotine) といふ醫師が發明したといはるる斷頭臺。これはバリー博物館の模型から寫したものである。下方の圓き穴に首を入れ、綱を引けば上部の鋭刀が落ちて首を切る。右方に置かれたるは首を入るる籠である。國王・王妃を始め多くの人々がこの臺上の露と消えた。

「マルセイエズの吟誦」(中 130、實 101)

マルセイエズはストラスブールの市長が列國同盟と開戦するとの報を得て愛國大會を催した時、一青年士官ルージエドールが吟誦せるもので、本圖は大會後の晩餐會席上にて吟誦するところである。ジエアーピルスの筆になる歴史畫であつて、必ずしも事實と一致せるものではない。しかし愛國の熱情に燃えて歌ひ、主人・來客婦人等がこれに聽き入るところはよく表現せられてゐる。

「ジャコベン黨本部」(師 109、中 131、實 103)

これはバリーのサン・トノレ街にある古き僧院であつたのを、ジャコベン黨が本部とせるもの。革命時代を通じてジャコベン黨の過激なる恐るべき策謀はここから出たのであつて、ロベスピエールなどが最も活躍したのである。

「ロベスピエール」(師 108、中 130、實 102)

本書七〇一—七〇九頁参照

「風俗の激變」(師 109、中 131、女 84、實 102)

當時の戲畫による。右方は革命前の風俗、左方は革命後の風俗である。革命前の婦人は頭髮を飾り、耳輪・首飾・腕輪をつけ、腰籠を入れて衣服の下部を膨らませ、華美な衣裳をつけてゐた。男子の上着・直着等も華美なものである。革命後は婦人も簡素となり、男子も裝飾なく、革命前の上品華麗なるに對して野卑低俗である。この圖は左側の夫婦が「まあ、何と古臭い」(Ah! quelle anti-

quité)といふと、右側の夫婦が「おほ！新流行なんて何とつまらない」(Oh! quelle folie que la nouveauté)と言ひ合つてゐるところである。

〔小ピット〕(師110、中132、實103)

本書七二二頁参照

〔第一統領としてのナポレオン〕(師110、中132、女84、實104)

一七九九年十二月十五日、ナポレオンが第一統領として會議に臨み、ルクサンブル宮殿の一室で、議員の宣誓をうけるところである。彼の兩側にゐるのは二人の統領であり、卓子の下に坐して記録してゐるのは祕書である。かくて始めてナポレオンが軍事・政治の實權を握つたのである。ク
ーデ筆、ヴェルサイユ博物館壁畫。

ナポレオン一世

〔ナポレオン皇帝・皇后の戴冠式〕(師112、女85)

パリーのルーヴル博物館にある大壁畫、ダヴィッド筆。本圖はその宏大なる圖の中央部を抽出したものである。一八〇四年十二月二日、パリーのノートルダム大寺院にて法王ピウス七世によりナポレオンが戴冠式を行つて後、更に自らジョセフィンに寶冠を授くるところである。法王ピウス七世はナポレオンの背後にあり、正面を向いて十字架を捧ぐるはイタリアの僧官、最も神聖にして最も華

やかなる式場にジョセフィンが跪坐禮拜合掌して寶冠をうくる姿は蓋し彼女が無上の光榮と歡喜に満てる時であらう。

〔レジョンド・ヌール〕(師111、中133)

本書七二三頁参照

〔ヴィクトリヤ艦上のネルソン〕(師113、中135、實106)

一八〇五年十一月二十一日、トラファルガル海戦に於て旗艦ヴィクトリヤ艦上のネルソンが開戦に當つて有名なる信號旗を掲げしむるところ、中央正面に向けるがネルソン。歡呼のうちに信號旗が上りゆく嚴肅なる光景である。

〔皇帝ナポレオン〕(中134、實105)

本書七二三頁参照

〔レチチャラモリノ〕(女86) フランス畫家ゼラール筆。

本書七一八頁参照

〔チルチットの和約〕(女87、師113、中136、實107)

ヴェルサイユ博物館藏、グロ筆名畫。中央左よりナポレオン・ロシア皇帝アレクサンドル一世・プロシヤ皇后ルイゼ・プロシヤ王フレデリック・ウィリアム三世の順序である。この會議に於てルイゼ皇后はプロシヤのためナポレオンに寛大なる處置を懇望したけれども、ナポレオンはこれを峻拒して苛酷な條件を以て和約を結ばしめた。師範中學實業教科書所載のものは、三帝王が條約成立後握手してゐるところであるが、ナポレオンと兩帝王との間には和合の氣分なく、却つてプロシヤ(右・ロ

シヤ(左)兩王が交歓してゐる如く見えるのはこの條約の意義をよく現はしてゐる。

〔ナポレオン軍の退却〕 (師115、中138、女87、實108)

モスコーから酷寒と飢餓とに苦しめられつゝ、悄然と退却してゐる姿である。攻め入る時の勇躍奮迅の餘さへなく、雪に埋れたる砲車や人馬の屍を左右に見つつ故國に急ぐ英雄の末路は誠に痛ましき限りである。

〔ルイゼ皇后〕 (女89)

本書七三五頁参照

〔シュタイン〕 (中138)

本書七三五・七四五頁参照

〔ナポレオンの流涕〕 (師116、中139、實109)

ワトテルローの敗戦後、ナポレオンはアメリカに遁走せんとしたが失敗し、英船ベレロフォン號に赴いて降服した。圖はイギリス畫家オーチャードソン(Orchardson)の筆で、船上遙かに故國を眺めて無量の感慨に耽つてゐるところである。

〔ライプチヒの戦〕 (女88)

この戦は無敵のナポレオンを最初に破つた戦として名高い。圖は戦勝の報を列國の本營に齎らすところである。ハンス・シュミット筆。

反動主義と自由主義

〔ウィーン會議〕 (師117、女90)

ヤー・イザベイの筆。左端に立てるがウエリントン(英)、六人目前面に立てるがメッテルニヒ(奥)、十人目卓子前に足を組んで坐するがカッスルレー(英)、右方二人目卓子に手をおいて坐せるがタレーラン(佛)、また左方の前方にて椅子に坐せるはハルテンベルグ(普)である。

〔アレクサンドル一世〕 (中141、實111)

本書七五二頁参照

〔メッテルニヒ〕 (師119、中143、女91、實112)

本書七四三―七六四頁参照

〔モンロー〕 (師119、中143、實113)

本書七六二頁参照

〔ドイツ青年組合旗と劔〕 (中142、實112)

青年組合の旗の色は上部より黒・赤・金の三色で、中央にドイツの國民性を表徴する樺の木を記し、下方の文字は「一八一六年三月三十一日イェナの婦人及び少女より寄贈」とあり、劔はドイツ青年の精神を表徴するもので、そこには「祖國の爲に」(Fürs Vaterland)と刻してある。

〔ルイ・フィリップ〕 (師120、中144、女92、實113)

本書七六五頁 七六九―七七七頁参照

〔ギゾー〕 (中145、實114)

本書七七〇頁参照

産業革命と社會上の變化

〔紡績機と織物機と織物工場〕（師122、中147、女93、實115、116）

ハーグリーブスの紡績機は車輪に取付けたるハンドルを動かして車を回轉せしめ、その運動を左下の紡錘に傳へ、同時に數本の絲を紡ぐものである。カートライトの織物機は下方のハンドルを動かせば、中央に横はる梭箱の梭が左右に動くこととなつて横絲が通され、それと交互に筈フタが動いて織られゆくこととなるのである。織物工場に備付の織物機は織物を自動的に織る機械で、從來の手工織機に比して能率も高く、而も少數の人手にて足るもので、産業革命の生産的效果がよく表現せられてゐる。

〔オーコンネル〕（師124、中149、實118）

本書七九八頁參照

國民的國家の隆盛（イギリス）

〔選挙法改正案の通過〕（師126、中151、實119）

改正案はグレイ伯のホイッグ黨内閣の時に六〇八人の議員が激烈なる論戰の後、遂に一票の差を以て通過した。

〔コブテン〕（師126、中152、實120）

本書八一二頁參照

〔ヴィクトリヤ女王〕（師127、中153、女95、實121）

本書八一八頁參照

〔ヴィクトリヤ女王即位式〕（女95）

ヴィクトリヤ女王はジョージ三世の孫、ケント公（ジョージ三世の三男）の女、伯父ウィリアム四世に後嗣がなかつたため、一八三七年その後をうけて即位した。これはその翌一八三八年一月二十八日、ロンドンのウェストミンスター寺院に於ける戴冠式の圖である。この時女王は芳紀正に十八歳、最も神聖なる場所に於て花の如き婦人に奉仕されながら、大僧正の手によつて最高の王冠を戴いた。これは誠に莊嚴華麗なる式典である。翌年アルバート公と結婚し、在位六十四年の長きに及びイギリス最盛の時代を出現した。

〔チスレーリ・グラッドストーン〕（師128、中153、女96、實121）

本書八二〇—八二二頁參照

〔バーマストン〕（中154、女94、實122）

教科書の上欄解説參照

國民的國家の隆盛（アメリカ合衆國）

〔南部に於ける棉花の積出〕（師130、中156、女97、實124）

アメリカ合衆國南部には十九世紀の頃盛に移民が來た。彼等は開墾に努め、農業の發達は極めて

産業革命と社會上の變化 國民的國家の隆盛

顯著なものがあつた。小麦・棉・玉蜀黍等がその主なる産物で、これらは大平野の動脈ともいふべきミシシッピ川によつて河口ニューオルリーンスに集められ、そこから更に歐洲に向けて積出さるることとなつた。圖はニューオルリーンス埠頭に於ける棉花の積出であるが、十九世紀の中頃としては汽船も大型であり、貨物も豊富であつた。

〔北部に於ける製鐵工業〕(師130、中157、女98、實124)

ワイヤー筆、ニューヨーク博物館所蔵の繪畫で、製鐵工場に於て、船舶用の大鐵柱を製造するところである。現今の如く工場建築が鋼鐵製でないため、巨大な木材を組み、且つ機械の力を利用すること少く、多數の労働者を使用し、また方法も幼稚であることを免れぬが、しかし當時としては大規模なものであつた。

〔ストウ夫人〕(女98)

本書八三四頁参照

〔奴隸解放記念碑〕(師131、中158、女99、實125)

ワシントン市に設立せられたる奴隸解放記念碑。中央に立てるがリンカーンで、その膝下に跪けるが黒人奴隸、その下には解放(EMANCIPATION)の文字も讀まれる。

國民的國家の隆盛(フランス)

〔ルイブラン〕(師133、中160、實127)

本書八四四頁参照

〔ナポレオン三世〕(師134、中161、實128)

肖像の周圍は一八五二年十一月の國民投票の結果を示したものである。外輪より縣名、次は縣内賛成投票數、次は反對投票數、上部は賛成投票總數。

〔ナポレオン三世とその皇后及び女官〕(女101)

ユーゼニ皇后はイスパニヤの貴族モンティホ伯マヌエルの次女である。ナポレオンは列國君主の名門にその配偶を求めたが拒絶されたので、才色兼備にして優美艶麗な彼女を迎へたのである。圖は皇后がフォンテンブロー宮殿の庭園に於て多くの美しき侍女達に圍繞せられてゐるところで、左より四人目が皇后である。これによつて當時の宮廷風俗を窺ふことが出来る。皇后はナポレオン没落後イギリスに亡命し、ついでイスパニヤに歸り、世界大戦の時は病院を設けて聯合軍のために盡し、一九二〇年歿した。ウィンターハルター筆。

〔パリーのオペラ劇場〕(女101)

一八六二年、ガルニエが設計し、ナポレオン三世の最も隆盛なりし頃起工、一八七四年竣工した。宏壯華麗なること世界に比類なき建築で、正面入口には有名なカルポの「舞踊」の彫刻があり、内部の大階段を始め、遊歩室・觀客席・舞臺等すべて絢爛豪華の裝飾と照明の妙をつくしてゐる。この建

築と共に、ここに演ぜらるるオペラ(歌劇)もまた世界的に有名である。

〔産業院〕(師135、中162、實128)

一八五五年ナポレオン三世はパリに、萬國博覽會を開いてフランス製品の優秀なることを世界に誇つたが、また國內の産業特に新興工業としての機械器具等の製産を盛にせんとし、産業院を設け、茲に發明品・新製品等を陳列して一般の觀覽に供し、以て産業獎勵の實をあげた。これはナポレオン三世の輝しい一つの記念物といつてよい。

〔ガムベッタ〕(師135、中162、實129)

教科書の上欄解説参照

國民的國家の隆盛(イタリヤ)

〔ヴィクトル・エマヌエル二世〕(師137、中164、女105、實130)

本書八六一—八六五頁参照

〔カヴールとガリバルチ〕(中165、女105、實131)

本書八六一—八六四頁参照

〔ガリバルチとエマヌエル二世との會見〕(師138、中166、女105、實131)

ガリバルチは義勇軍を率ゐて南方を征服し、一八六〇年十月ヴィクトル・エマヌエル二世とナポリ郊外カヤネロに於て會見の際、親密なる握手を交して征服地をすべて獻上した。事實上のイタリヤの統一はこの時完成したといつてよい。本圖はその劇的會見の狀を描いたもので、圖中右方白馬に

跨れるがエマヌエル二世、その左方の黒馬に跨れるがガリバルチ將軍、ガリバルチの背後に歡呼の聲をあげてゐるのが赤シャツ隊である。原圖はビエトロ・アルチ筆、イタリヤのシエナ議事堂にある壁畫である。

〔イタリヤ統一記念塔〕(師139、中166、實132)

ヴィクトル・エマヌエル二世及びイタリヤ統一の偉業を記念するために一八八五年起工せられたもので一九一一年竣工した。宏大な大理石の建築で、前面中央にエマヌエル二世の銅像が建つてゐる。ここは所謂ローマ市の中心で、記念塔の背後は古代ローマの中心たるフォラムの大遺跡にあたり、前面はヴェネチヤ廣場でムンソリーニの居る有名なヴェネチヤ宮殿はこの廣場の一部にあり、現今ローマ市民の政治的中心となつてゐる。

國民的國家の隆盛(ドイツ)

〔ウイリヤム一世〕(師140、中168、實133)

本書八七四頁参照

〔ビスマルクとモルトケ〕(師141、中169、女102、實134)

本書八七四—八九四頁参照

〔セダン降伏條件協議會〕(中170)

これはドイツの有名な歴史畫家アントン・フォン・ウエルネルの筆。一八七〇年九月一日、セダンの西

方ドンシェリーに於て兩軍の全權モルトケとワンバンとがビスマルク立會の下に降伏條件を協議せし時の圖である。席上モルトケは、(一)フランス全軍が捕虜たること、(二)武器軍需品等すべてを引渡すこと、(三)直ちにセダン城を開城すること等の嚴重苛酷なる條件を提出して一步も譲らず、ワンバン等はこれを緩和せんとして論議を盡したが、遂にその效を奏しなかつた。嚴然として坐するビスマルク、昂然として立てるモルトケ、悲憤の一瞥を残して立ち去らんとするワンバンなど、よくその當時の光景を髣髴せしめてゐる。會議は午前一時に終つた。翌朝ナポレオン三世は條件緩和のため無蓋馬車でプロシヤ國王に面會を求めたが許されず、僅かにビスマルクと民家に會見したが目的を達せず、ナポレオンもまた全軍と共に降服することとなつた。

〔ドイツ皇帝即位式〕 (師142、中171、女103、實135)

本圖はベルリンの遊就館ともいふべき武器博物館に陳列せられ、ドイツ帝國の光榮を物語るものである。一八七一年一月十八日、未だドイツ軍がパリを包圍攻撃中、ヴェルサイユ宮殿鏡の間にて、ドイツ皇帝の即位式をあげ、ドイツ帝國の成立を宣した光景である。壇上中央に立てるが新皇帝ウィリヤム一世、その傍に手をあげて萬歳の發聲をなせるはバーデン大公フレデリック、皇帝の背後に皇太子フレデリック・ウィリヤム、階下中央はビスマルクにてその傍にあるはモルトケ將軍である。アントン・フォン・ウエルネル筆。

〔戦勝記念碑〕 (中170、實135)

ドイツ・フランス戦役後、ドイツでは到るところに多くの戦勝記念碑が立てられたが、これはニールワルトに立てられたものである。碑上に立てるはドイツ民族の守護神たるゲルマニヤの像、左手に劍をもち右手に高く勝利の榮冠を捧げてゐるところである。

〔ドイツ國會議事堂〕 (師143、中172、實136)

一八九四年ウィリヤム二世の時竣工、ドイツ帝國の最も華々しき時代に建てられたものである。前面にビスマルクの銅像あり、更に廣場の反対側には高い戦勝記念塔があつて、このあたりは帝政時代ベルリン市民の政治的中心をなしてゐた。

國民的國家の隆盛(ロシヤ)

〔ベルリン列國會議〕 (師146、中176、實138)

一八七八年七月十三日の會議の光景。右端がメヘット・アリ・バシヤ(土)、大卓子の前面に於て握手する右方がスワロフ(露)、左方がビスマルク(獨)、その左方がアンドラシー(奥)、また左方椅子によれるが、ゴルチャコフ(露)にて彼と對し立つて談話せるがズレーリ(英)である。會議の内容については本書九〇七頁を参照されたい。

〔アレクサンドル二世〕 (中177、實139)

本書九〇七頁参照

〔ニコラス二世〕 (師146、中177、實139)

本書九〇八頁参照

〔ニコラス二世即位式〕 (女106)

ニコラス二世の即位式は一八九六年(明治二九)五月、モスコーに於て舉行された。ロシア皇帝は同時に東ローマ教會の管長として宗教上の最高権者であつたから、その儀式も著しく宗教的である。この行列は僧侶を先登に騎士が護衛し皇帝が中央にあり、天蓋(長方形の枠に錦繡を垂れ、裝飾を施し、四隅より棒にてこれを捧げたるもの、宗教上の儀式に用ふ)によつてその尊嚴を象徴され、文武百官の間を進行するところである。

最近世の文化

〔ファラデー〕〔キュリー夫人〕〔ダーウイン〕 (師147、148、中178、179、女108、實140、141) 本書九一七―九二〇頁参照

〔最初の汽車汽船〕 (師149、中180、實141)

一八三〇年スチヴンソンが發明當時の機關車は時速二四杆、マンチェスター・リヴァプール間の時は四六杆半にて驚異的速力であつた。煙突が高く機關が外部に露出せるところなどは如何にも初期のものといふ感がある。フルトンの汽船は時速六杆半でハドソン川を走つた。このクレルモン號にはなほ帆の用意があり、煙突と機關と前方舷側の推進車とは新發明のものである。なほ暗車(リウ)が

發明されてゐないから、船尾には舵機のみがついてゐる。

〔エチソン〕 (師149、中180、實142)

本書九二二頁参照

〔リリエントールの飛行機〕 (師150、中181、女109、實142)

ドイツのリリエントールが一八九六年の飛行に用ひたるもので、單葉・複葉等あり、その構造は今日のものと同原理的には相似てゐるが、發動機はなく、グライダーの如きものである。本圖はミュンヘンにあるドイツ博物館所蔵の模型によつたものである。

〔十九世紀中頃の飛行船〕 (女109)

これはギッファルドによつて一八五二年に建造せられた飛行船の模型(現ドイツ博物館所蔵)からとつたものである。水素瓦斯または石炭瓦斯を充填して紡錘形の氣球をつくり、風力を利用して進行せしめたもので、後部に舵がついてゐる。

〔都市の發達〕 (師151、中182、實144)

上圖は十七世紀頃のロンドン市ピカデリー街の景觀で、古風の家が立ち並び、廣場の中央には宗教的記念碑が立ち、その周圍に馬車・馬または槍をもつた武士、市民などが雑踏してゐる。右方の家屋軒下より突き出したるは馬具屋の看板である。下圖の宏壯なる建築、交通機關などと比較すると興味がある。ここでは自動車・乗合バス(二階)が走り、本圖には見えないが地下には地下鐵が通つ

てある。

〔アダムスミス〕(實143)

本書八一三頁参照

〔カールマルクス〕(師152、中183、實145)

本書九三二頁参照

〔ハーグの平和殿〕(師153、中184、實145)

オランダの首府ハーグにあり、一九一三年夏、恰かも世界大戦直前に竣工したのは皮肉である。アメリカ合衆國のカネギーはこのために千五百萬弗を寄附し、世界各國より、その美術裝飾等を寄附した。我が西陣織などもこの内部の一壁を飾つてゐる。

〔ヘーゲル〕(中184)

本書九四二頁参照

〔ユーゴー〕(師154、中185、女110、實146)

本書九四三頁参照

〔トルストイ〕(師154、中185、實146)

本書九五五頁参照

〔イブセン〕(女110)

本書九五四頁参照

〔聖ニパリーを見守る圖〕(女110)

圖はパリーのバンテオンにある壁畫でシャヴァンヌの描くところである。パリーを一望のうちに收むるジュヌヴィエーヴの丘から、パリーの守護神である聖ニジュヌヴィエーヴが月明の夜嚴かにパリーの町を見守る圖である。高尚典雅で清純な宗教的氣品に満ち、見るものをして自ら恍惚たらしむるものがある。

〔ロダン作、考へる人〕(師155、中186、實147)

ロダンは寫實の妙を極め力強い表現をなし、ミケランジェロを髣髴せしむるものがある。「カレーの市民」接吻「考へる人」等多くの傑作を出した。「考へる人」はパリーのロダン博物館にあり、彼の特色の一面を最もよく發揮したものといつてよいであらう。

〔ベートーヴェン〕(師155、中186、女111、實147)

本書九五九頁参照

師範女學校教科書にあるベートーヴェンは彼が壯年の頃一室に籠りて作曲に餘念なき姿を描いたものであり、下圖は彼の故郷ボン市のベートーヴェン博物館に陳列せられた樂器で、ピアノ・セロ・ヴァイオリン等さまざまのものがある。蠟燭臺樂譜椅子などを見ると自ら彼の在りし日の姿が髣髴するであらう。

〔ワグネル〕(女111)

本書九六〇頁参照

〔十九世紀頃の婦人職業〕(女112)

これは靴製造に従事するフランス婦人であるが、婦人の職業が最初は婦人に適する織紡裁縫賣買等に限られてゐたが、次第に一般職業へと進出していった。

〔ナイチンゲール〕(女112)

本書八四七頁参照

〔産業の發達〕(師中女實プレート)

中世より近世初期への農法に就てはイギリスの十五・六世紀頃に於ける農法を掲げた。畑を耕す時は馬を用ひ鋤・鍬を使用して種を蒔き、鎌を用ひて刈り取りこれを束ねて運搬し、更に連枷(から)にて實を落して收穫したものである。然るに近世後期に至つてから廣大なる土地に大規模なる耕作・收穫法を行ふやうになつたが、その形式・道具等は中世と變らない。十九世紀の末期より二十世紀頃にはドイツ・アメリカ合衆國等では耕作・種蒔き・刈取りにすべてここに示すやうな機械を用ひ、蒸氣機械その他の動力によつてなるべく人力を少くし、大規模に行ふこととなつた。これが所謂現今の大農法の起源である。

工業の發達に就いて、上圖はドイツのシレシヤ地方にありし十八世紀頃の熔鑪であり、下圖はクルップ鐵工場の熔鑪である。規模の壯大、機械の精密複雑なることなど容易に理解し得べく、ここに近世工業と現代工業との差異を認識することが出来る。

商業の發達について、上圖は一八四七年頃のハンブルグ港、馬車・貨車などの往來する埠頭に多數の帆船が輻輳してゐるところは如何にも壯觀であるが、貿易額及び取引の能率からいへば遙かに後世に及ばない。下圖は一九一三年頃のハンブルグ港で、壯大な二個の埠頭を設け、そこに十數棟の巨大な倉庫があり、その間には汽車の引込線も敷設され、岸壁には遠洋航路の汽船が横着けとなつ

てゐる。二者を比較すればその變遷の如何に大なるかを知ることが出来るであらう。

〔現代の繪畫〕(師中女實プレート)

ルノアールの「庭の朝食」は彼の比較的初期の作品、従つて後期の如く強烈な色の畫風ではなく、清爽輕快の風がある。これは初夏の頃庭園の卓上で輕い食事(午前十時頃)をとつて後主人は煙草に火をつけその娘は葡萄酒の小杯を手にもつてゐる圖で、上流家庭の食後の満ち足りたあとの輕い心持を巧みに捉へてゐる。背景となつてゐる花のある樹木、黒い着物と淡紅色の着物との調和、二人の婦人の眼や口の印象的などころなど卓上のマッチの赤い色などと相俟つて誠によく描かれてゐる。原畫はパリーのデュランメル蒐集の中に藏められ、初期の印象派に屬する傑作の一となつてゐる。ヴァン・ゴッホはオランダ人でフランスで活躍した後期印象派の畫家である。太い線と思ひ切つた構圖と強い色調とで優れた作品を多く遺してゐる。「向日葵」椅子」など多くの傑作があるが、ここに掲ぐる「野良がへり」はミレーの「祈り」を思はせるやうな田園情緒豊かなもので、ミレーよりも遙かに快活で而も活動的である。空及び地面の大膽な筆觸など太い線ではっきりした色で、よくその特色を發揮してゐる。

セザンヌの風景は南佛ブロヴァンス地方を描いたものである。一見何等の奇もなきところを描いてゐるが、それでゐて立派な繪になつてゐるところは主として色のよさが自然の心をよく表現して

あるからであらう。空の色と地の色との対照。その間にある遠くのと山と近くの木叢、丘の切り口、丘の上の赤い屋根など、誠に快よい諧調を示して恰かも自然そのまゝの心を見るやうな気がする。木叢や杭や遠くのと山など極端に省筆してゐるところは恰度我が四條派の繪を見るやうで、ここにも印象派の特色を見出すことが出来る。

現代史

列國の國力充實と世界政策

〔スエズ運河とレセップス〕 (師158、中189、實150)

本書九九一頁参照

〔セシル・ロイツ〕 (中190、實151)

本書九九〇頁参照

〔エドワード七世〕 (女114)

教科書の上欄解説参照

〔印度に於けるヴィクトリヤ女王〕 (師159、中190、實151)

ヴィクトリヤ女王は一八七七年ロンドンで印度皇帝の即位式をあげて後、印度に旅行した。これは印度に於ける歓迎式の一場面で、洋傘をもてるは女王、その左に坐せるは夫君アルバート公である。

〔大英帝國會議〕 (師161、中192)

大英帝國會議は分散せるイギリスの植民地自治領を統一せんとする重要な會議で、十九世紀の末チェンバレンが主張してこれを開いた。本圖は一九〇七年に開かれた時の情景で、カナダ・オーストラリア・南阿聯邦・ニュージラランド・ニューファウンドランド等の代表者が集まつて、政治經濟その他の重要問題を議した。これが大英帝國結合の基礎であるといつてよい。

〔シーメンス工場〕 (師163、中194、女117、實154)

シーメンスは一八四八年軍籍を退くと共にハルスケと協同してベルリンに電氣機械・器具製作所を經營した。最初は僅かに十名の職工を使用せしものが、六十年後の世界大戰前には八萬二千人を使用する程になつた。圖はベルリンにある大工場のうちの電動機製作場の一部であるが、誠に近代科學工場の偉觀といふことが出来る。

〔シベリヤ開拓に従事する労働者〕 (中197、實157)

ロシアはシベリヤ開拓に刑人を使用した。圖はその刑人が監督者の下に共同生活をなす、宿舎をうつつしたものである。彼等はここを根據としてその附近の開拓に従事するのである。

〔ウイールヘルミナ女王〕 (女118)

教科書の上欄解説参照

〔ニューヨーク市の發達〕 (師167、中198、女119、實158)

上圖は一六五五年頃のハドソン河口にある港の光景。河上には海洋船が碇泊し、岸には倉庫が立

も並び、市内には高く教會の塔が聳えてゐる。然るに約三百年後の今日は世界第一の高層建築が立ち並び、現代都市の粋を集めてゐる。兩者を比較してその變遷の甚だしきを窺ふべきである。

〔マッキンリー〕(師168、中199、實159)

本書一〇三八—一〇三九頁参照

〔パナマ運河〕(中200、實160)

パナマ運河がアメリカ合衆國の國防上重要視されるべきは言ふまでもないが、特に日米關係の緊張せる今日その重要性は倍加されたものといつてよい。圖はバルボアドック内にアメリカ合衆國太平洋方面配備艦が碇泊してゐるところである。

〔パナマ運河〕(師169、女120)

本圖はパナマ運河の水準を調節する閘門を示したもので、汽船がここに入ると兩方の閘門を塞ぎ、中の水量を増減して水準を上下させるものである。

世界大戦

〔ウイリヤム二世〕(師172、中203、女122、實162)

本書一〇五一頁参照

〔フェルチナンド夫妻〕(師175、中206、女125、實164)

圖は一九一四年六月二十八日、オーストリア皇太子夫妻が演習統監のためサライェヴォに到達し、

市役所を訪問して後自動車に乗るところで、トルコ帽を被りたるボスニヤ官吏達が見送つてゐる。皇太子夫妻はこの後數分間にして途上セルビア青年のために暗殺せられたのである。

〔軍國ドイツ〕(師176、中207、女125)

本圖はドイツの近衛兵が軍樂隊を先登に威風堂々とベルリン市中を行進するところである。大戦前ドイツ國民が如何に軍隊に慣れ軍國精神が横溢してゐたかを察するに足る。

〔ヴェルダンの戦跡〕(師177、中208、女126)

ヴェルダンは世界大戦中最も激戦のあつたところで、文字通り屍山血河の壯烈戦を演じ、幾度か奪を繰り返し最後までフランス軍の死守したところである。圖はヴェルダン要塞頂上の小丘で、この小丘の中には數階の地下室があつて、彈藥食糧通信兵營その他に使用されてゐた。前面の木柵内には名譽の戦死者の墓標がある。

〔聯合國側の中心人物〕(師178、中209、女126、實165)

一九一六年八月、イギリス皇帝がフランスを訪問し、親しく聯合軍の戦線を視察された時の記念撮影である。寫眞左よりジョッフル將軍(佛・ポアンカレ) (フランス大統領)、ジョージ五世(イギリス皇帝)、フォッシュ將軍(佛・ヘーグ將軍(英)である。

〔潜水艇の活躍〕(師178、中209、女127、實166)

本圖はドイツ潜水艇がアイルランド海岸にあるイギリスの大貯油所を砲撃し、火災を起さしめてゐる壯烈な光景である。半ば水面に浮び上つた潜水艇にはドイツ軍艦旗を掲げ、數名の水兵が艦上砲塔等に於て盛に活動してゐる。

〔西部戦場の光景〕 (中210、女127、實167)

目標となるべき樹は切り倒されて一面廣漠たるところに塹壕を設け、その前面に鐵條網を張つて防禦してゐる。敵陣では盛に毒瓦斯・煙幕などが射出され、空には砲弾が炸裂してゐる。

〔軍需工場〕 (師179、中210、實167)

大戦當時に於けるフランスの一軍需工場の光景で、等身よりも遙かに大なる重砲弾を盛に製造してゐる。戦争が次第に國民の總力戦となつた一面を窺ふべきである。

〔ヴェルサイユ條約調印〕 (師180、中211、女128、實168)

一九一九年六月ヴェルサイユ宮殿鏡の間に於ける調印式の光景で、圖中大卓子を前に居並ぶ列國使臣のうち、左より三人目がウィルソン、次がクレマンソー、次がロイド・ジョージである。その手前に後向きになつて調印をしてゐるのがドイツ代表である。

大戦後の世界情勢

〔國際聯盟本部〕 (師182、中214、女130、實171)

本書一一〇三頁参照

〔ハーチング〕 (中215、實171)

本書一一〇七頁参照

〔ロンドン會議〕 (師184、中216、實172)

一九三〇年第三回軍縮會議の際、英京ロンドンに於て我が代表がマクドナルド英首相を中心に私的會談を行つてゐるところ。左より財部彪若槻禮次郎・マクドナルド・松平恒雄・齋藤博である。この軍縮會議に於ては補助艦の比率を日英米にて七・一〇・一〇と協定した。

〔賠償反對の叫び〕 (師185、中217、女131、實173)

ドイツの賠償金が莫大なる額に上り、到底支拂の見込立たず、遂に國家が困窮のどん底に陥つたことは、本書一一一四頁以下に記すところであるが、そのためにドイツ國民は至るところで賠償反對の示威運動を起した。圖はケルン市の大寺院前廣場に集まつた大群集で、敗戦による困窮のどん底からあげた雄叫びであり、これがドイツ再興の聲でもあつたのである。

〔フランス軍のルール占領〕 (中218、實174)

ドイツのルール炭田地方と工業地帯は、ドイツ經濟の心臓であるといつてよい。ドイツが賠償金の支拂不能に陥つたため、フランスはここを占領した。圖はフランス兵が一工業都市を占領し、工場附近に屯してゐるところである。この占領は三年間に及び、一九二四年ドーズ案の成立と共に撤

兵することとなつた。

〔ヒンテンブルグ〕 (中219、實174)

本書一〇八〇・一一二〇頁参照

〔ヒットラー〕 (師186、中219、女131、實176)

本書一一七〇頁参照

〔ナチス大會〕 (師186、中220、女137、實175)

ナチス大會はナチス黨の團結を固くし、且つその主義政策を宣言するために開かるるもので、毎年一回ニュルンベルグで開かるるナチス黨大會は最も重要視されてゐる。またその時のヒットラーの演説はドイツ國の政治政策を發表するものとして有名である。本圖は一九三四年ベルリン郊外テンプルホフに於ける大會の壯觀である。

〔ムッソリーニの演説〕 (中221、女132、實176)

ムッソリーニがファシスト黨の首脳部を背後に控へて、黨大會に獅子吼するところである。全體主義國の指導者である彼もヒットラーと共に演説に熱と力がこもり、その一言一句も世界の視聽をあつめてゐる。

〔レーニン〕 (師188、中222、女132、實177)

本書一〇八八頁参照

〔スターリン〕 (師188、中222、女132、實178)

本書一一二八頁参照

〔ロシア空軍の威容〕 (中223、實178)

ロシアは長距離大型飛行機に優れて居り、空軍は陸上部隊八百中隊以上、その機数は六五〇〇機に達するといはれてゐる。これはコザック騎兵部隊の上空を空軍の大編隊が飛翔する威容である。

〔ロシア高射砲隊の威容〕 (師188)

教科書の上欄解説参照

〔マクドナルド〕 (中224、女132、實179)

本書一一一〇・一一三四頁参照

〔ジョージ六世〕 (師189、中225、女133、實180)

教科書の上欄解説参照

〔ボアンカレー〕 (師190、中226、實181)

本書一一四三頁参照

〔カリフォルニア大油田〕 (師191、中227、實182)

カリフォルニア地方に於けるアメリカの豊富な大油田である。石油・ガソリン等は航空機・自動車等の内燃機関として、また軍艦その他に必要な重油を得るために、現代工業及び軍事・交通等に極めて有用なものである。經濟資源の豊富なアメリカに於ても、この油田は最も重要視されるもので、その産額は世界第一である。

〔ルーズヴェルト〕 (師192、中227、實183)

本書一一四八頁参照

〔アメリカ太平洋艦隊〕 (師193、中228、女133、實183)

アメリカ合衆國の海軍は世界大戰前は英獨について世界第三位であつたが、一九二一年のワシントン條約によりイギリスと共に世界第一の保有量を得ることとなり、更に一九三六年無條約となつ

て以来益々海軍を擴張して世界第一の實質を有せんとするに至つた。これは三萬五千噸級主力艦レキシントン號以下の軍艦が威風堂々太平洋に游弋する情景である。

〔エチオピア王の演説〕(中229、實184)

教科書の上欄解説参照

〔イスパニヤの戦亂〕(中230、女134、實185)

イスパニヤの内亂は五箇年に及んだ。これは反政府軍即ち赤化せざる正當穩健なる軍隊の首領フランコ將軍(先登)が戦線を視察する光景である。フランコ將軍は長らくブルゴスに都してゐたが、一九三九年バルセロナ等を攻略して都をもとの首府マドリッドに遷した。

現代の文化

〔ツェッペリン飛行船〕(師198、中231、女135、實187)

圖はツェッペリン飛行船がハンブルグのビスマルク像の上を飛行してゐる姿である。本船は世界大戰當時はベルギー・イギリスの攻撃に當り、特にロンドン空襲の際は大いに市民を脅威せしめた。その後一九二九年には我が國にも寄船して世界一周を完成し、後には南アメリカ飛行にも成功し、定期航空路を開いた。その本據はスウイス國境に近きフリードリッヒスハーフェンにある。

〔現代工場の景觀〕(師199、中232、女136、實187)

圖はドイツのライプチヒ附近メルゼブルグ市の工場地帯で、整然たる工場街衢をなしてゐる。圖の右下に交通運輸地帯・動力地帯(煙突の並)が見え、遙かに遠く商業地區・住宅地區が設けられてゐる。道がドイツ流の整然とした工場都市計畫である。

〔萬國労働會議〕(師200、中233、實183)

萬國労働會議は萬國の労働問題を論議して、労働者を擁護し、資本家の權益をも失はしめず、且つ勞資協調を計るもので、毎年ジュネーヴに開き各國より労働代表・資本家代表を出して會議せしめる。本圖は一九三六年(昭和一一)ジュネーヴに開かれた時の光景である。

〔戦時婦人の活動〕(女138)

戦時に於ては労働力の不足を來すため、婦人もまた銃後の人として労働に従事せねばならぬ。これはドイツ婦人が世界大戰當時軍需工場に働いて榴霰彈の製造に従事してゐるところで、誠に頼もしい風景である。

〔現代文化の驚異〕(師中・女・實ブレット)

現代文化の驚異は物質文明の進歩である。ギリシヤ時代は哲學と藝術に、ローマ時代は壯麗なる建設に、中世は宗教的世界に、ルネサンス期は古代文化の復興に、近世は哲學と文藝と科學に、何れも文化史上に華を開いたが、最近世より現代にかけては科學と物質文化に更に著しき光彩を添へ

た。特に最近世に於て經濟の發達を見たがそれは科學の發達に根柢をおくものであり、而も科學と經濟の聯還發達が現代の輝やかしき物質文化を成就せしむるに至つたのである。

而して物質文化が今日の大をいたしたことは各圖に示すが如く、交通に於ける航空機・汽車・汽船の發達、通信界に於けるラヂオの發達、工業に於ける動力と機械の發達等が基礎となり、茲に大規模の機械工業と堅牢壯大なる建築が現はれ、機械器具や日常生活具を始め、兵器の發達もまた極めて顯著となつた。

かくして現代文化に於ては物質文化と科學の勝利が謳歌せられてゐる。やがて物質文化の前に精神文化が跪坐する時代が來ないとも限られないが、物質文化を生むものは精神文化であり、物質文化を完全に驅使し更により以上の効果を發揮せしむるものが精神力であることを牢記しなければならぬ。ともあれ物質と精神の兩文化の關係は極めて密接なものである。

昭和十五年十一月二十一日 印刷
昭和十五年十一月二十五日 發行

最新西洋史參考書 (第三輯)

著者 中川 一 男

發行者 株式会社 東京開成館
東京市小石川區小日向水道町八十四番地

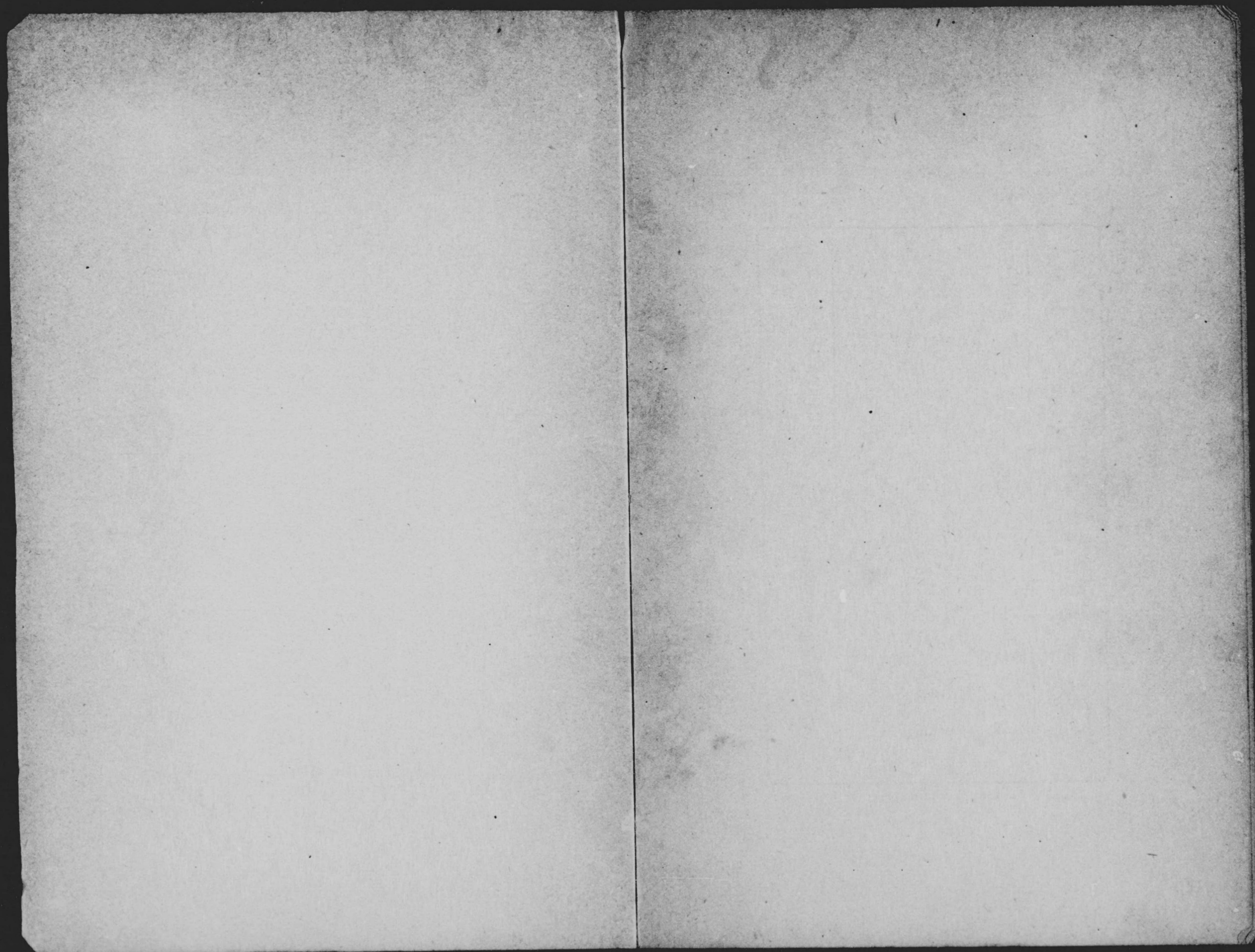
代表者 渡部 涉

東京市小石川區松ヶ枝町十六番地

印刷者 濱田 眞名 二

【品 實 非】

發行所 東京市小石川區小日向水道町八十四番地
株式会社 東京開成館



406
192



(本書の次イサハ國定書院蔵本也)